

平成 26 年 6 月 26 日

各 位

会社名 株式会社 新生銀行  
代表者名 代表取締役社長 当麻 茂樹  
(コード番号 : 8303 東証第一部)

## サラリーマンのお小遣いは 2 年ぶりに上昇―「2014 年サラリーマンのお小遣い調査」結果について ～昼食代は 23 円増の 541 円とワンコイン+消費税 8%の水準。1 ヶ月の飲み代は 770 円増の 8,459 円～

当行は、20 代から 50 代の男性サラリーマン約 1,000 人などを対象にした「2014 年サラリーマンのお小遣い調査」を実施し、その結果を取りまとめました。

### 「2014 年サラリーマンのお小遣い調査」結果の主なポイント

- 平均お小遣いは月額 39,572 円(前年比 1,115 円増加)で 2 年ぶりに上昇したが、リーマンショック前の水準(2008 年の 45,825 円)にはおよばず。調査開始以来、過去 4 番目に低い金額
- 昼食代は前年比 23 円増の 541 円。ワンコイン(500 円)+消費税 8%の水準
- 1 回の飲み代は前年比 9 円増の 3,483 円、回数も微増し、1 ヶ月の飲み代は 770 円増加の 8,459 円で 2 年連続上昇
- 女性会社員のお小遣い額は男性会社員より 2,860 円低い 36,712 円

2014 年の調査では、2 年ぶりにお小遣い額が回復、昼食代、飲み代も 2 年連続で上昇しましたが、その実態としては、お小遣い額はまだ過去 4 番目に低い水準のまま、昼食代はワンコイン+消費税 8%の基準、飲み代もほぼ横ばいとなっています。しかも、平均を引き上げているのは 20 代、30 代の若年層ではなく、40 代、50 代が中心となっており、若年層のお小遣い額や昼食代、飲み代などの金額は 40 代、50 代と比較すると低い傾向が続き、二極化が進んでいます。アベノミクスがサラリーマンのお小遣いに与える影響は限定的で、お小遣い面からみた日常生活のゆとり度は全体的に苦しいと感じる向きが強まっています。消費者物価が上昇し、消費税増税により出費も増えるため、お小遣いも増やさざるを得ない状況にあるとも言えます。来年もお小遣い額は増えると予想していますが、20 代、30 代は消費税の負担感が強く、節約の傾向も強いことから、消費意欲は他の世代よりも低いと考えられ、お小遣い額については、今年と同様に 40 代、50 代がけん引する状況が続くと思われます。

今年の調査から、女性会社員も 20 代から 50 代までに調査対象範囲を広げて、サラリーマン(男性会社員)との比較ができるようにしました。

### ■ サラリーマンの平均お小遣い額は月額 39,572 円(前年比 1,115 円増加)で 2 年ぶりに上昇したが、リーマンショック前の水準(2008 年: 45,825 円)までにはおよばず。調査開始以来、4 番目に低い金額

世代別では、近年は 2007 年以降、20 代のお小遣い額の減少が止まらず、2014 年についても、前年比 615 円減と唯一の減少となりました。一方、40 代と 50 代はリーマンショック後の 2011 年を底に 3 年連続で増加し、2014 年は 41,000 円を超えました。2012 年に 50 代のお小遣い額が 20 代を逆転して上回ってから、その世代格差が広がる傾向にあります。また、今年から調査範囲を拡大した女性会社員の 20 代から 50 代の平均お小遣い額は、男性より 2,860 円低い 36,712 円でした。

### ■ 昼食代は 541 円と 2 年連続で上昇したが、ワンコイン+消費税の水準

男性会社員の昼食代は昨年より 23 円上がって 541 円となり、2 年連続で上昇しました。しかし、500 円+消費税 8%の水準で、ワンコインランチの傾向が続いています。また、女性会社員の平均は男性より 29 円低い 512 円となりました。

### ■ 一回の飲み代は前年比 9 円微増の 3,483 円で昨年並み。月の飲み回数は 0.2 回増えて 2.4 回

男性会社員の 1 回の飲み代は、昨年より 9 円増えて 3,483 円となり、ほぼ横ばいでした。金額としては、1999 年の調査開始以来、4 番目に低い水準となっています。女性会社員の平均は男性会社員の飲み代から約 1,000 円低い 2,480 円となりました。

本調査の詳しい調査結果については、別添 1「日経平均株価、消費者物価指数とサラリーマンの平均お小遣い額の推移」、別添 2「2014 年サラリーマンのお小遣い調査詳細レポート」をご参照ください。

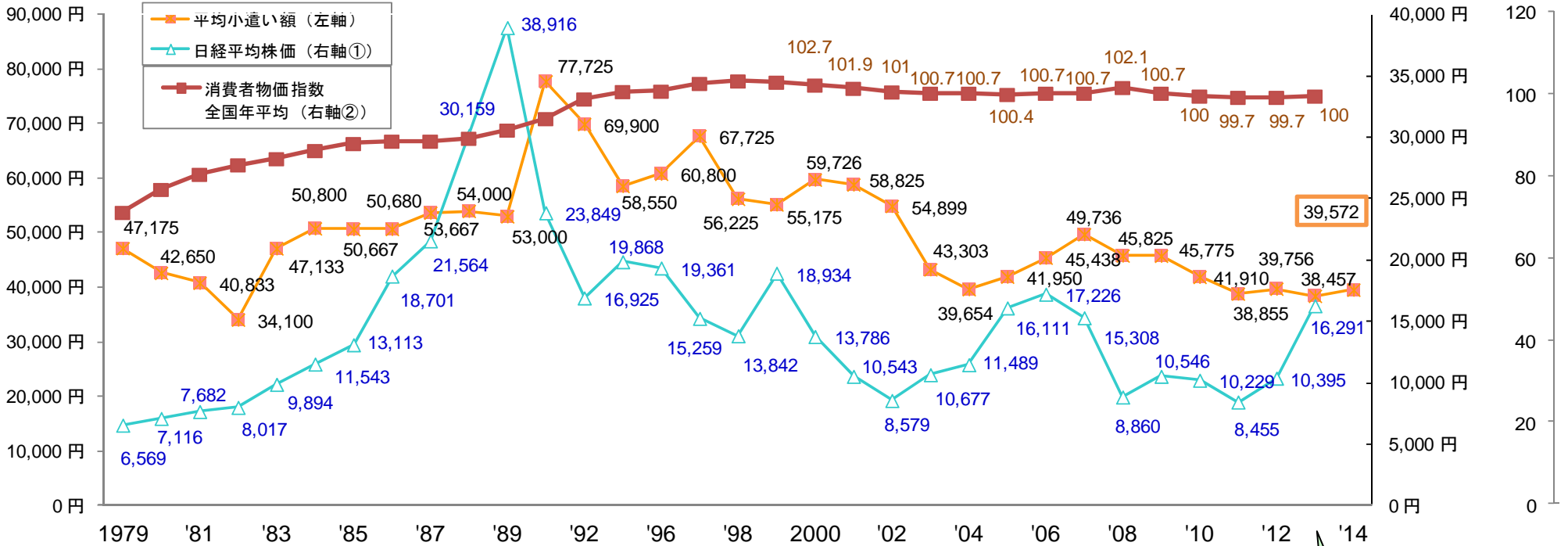
以 上

お小遣い額 (単位=円)

日経平均株価、消費者物価指数とサラリーマンの平均お小遣い額の推移(1979年～2014年)

①日経平均株価  
(単位=円)

②消費者物価指数



'82 東北新幹線開通  
500円硬貨発行

'83 東京ディズニーランド開業  
ファミコン発売

'90 消費税導入  
平均株価史上最高値  
(バブル経済絶頂期)

'96 阪神淡路大震災  
金融破綻相次ぐ

'00 iモード人気  
地域振興券配布  
商工ローン問題

'03 小泉政権誕生  
米国同時多発テロ

'08 リーマン・ブラザーズの破綻による世界的金融危機

'10 政権交代で  
民主党政権誕生

'11 東日本大震災  
円高の進行

'12 社会保障・税一体  
改革関連法成立  
安倍内閣発足

'13 アベノミクスによる円安  
進行、株価の回復  
TPP交渉参加を表明  
富士山が世界文化遺産に  
登録

※ 1978年以前と、1991年及び1993年、1994年については調査を実施していません。

※ グラフ中の日経平均株価は、年次データの終値を表記しています。



# ライフスタイル・ラボ

2014年

サラリーマンのお小遣い調査

## サラリーマンのお小遣い額は2年ぶりに上昇 また、ランチ代、飲み代は2年連続で上昇

- 平均お小遣い額は 39,572 円で、2 年ぶりに前年比 1,115 円上昇したが、リーマンショック前の水準(2008 年の 45,825 円)までにはおよばず、1979 年の調査開始以降、過去 4 番目に低い金額。20 代・30 代は厳しい一方、40 代・50 代がけん引し、二極化が進む。
- 1 回の飲み代は 3,483 円で、前年比 9 円の微増。月の飲み回数は 2.4 回と 0.2 回増加したことで、1 か月の飲み代は 770 円増加の 8,459 円で 2 年連続で上昇。
- 昼食代は 23 円上がって 541 円だが、ワンコイン+消費税 8%の水準。
- 消費税の負担を感じる人は 73%で、1989 年の調査開始以降、最高値を更新。
- 女性会社員のお小遣い額は、男性会社員より 2,860 円低い 36,712 円。

- 本調査は 1979 年以来、30 年以上にわたり実施しています。(1991 年、1993 年、1994 年を除く)
- 時系列で「日経平均株価とお小遣い額の推移グラフ」を添付しています。ご参照ください。
- 「サラリーマンのお小遣い調査 30 年白書」を含む調査結果は、ウェブサイト「ライフスタイル・ラボ」よりご覧いただけます。( <http://www.shinseibank.com/cfsq/> )

## <2014 年調査結果について>

### ■ 2013 年度の景況

2013 年度を象徴するキーワードといえば、新語・流行語にも選ばれた「アベノミクス」です。失われた 20 年とも言われる、長期にわたるデフレと景気低迷からの脱却を目指した、安倍首相が推進する「三本の矢」（大胆な金融政策、機動的な財政政策、民間投資を喚起する成長戦略）が、2013 年の日本経済にインフレ率の上昇、円安・株高という形で作用しました。これにより、複数の企業での業績回復や、個人資産の増加と消費マインドの大幅な改善が見られました。

サラリーマンの収入においては、2013 年の夏季・冬季賞与はいずれも前年比増加に転じ（非管理職で夏季前年比+0.7%、冬季同+2.4%）（一般社団法人日本経済団体連合会の調査結果）、また、ベースアップについても、経済産業省の「平成 26 年 企業の賃上げ動向に関するフォローアップ調査」によれば、東証一部上場企業で回答のあった 927 社のうち、ベースアップを実施した企業の割合は 46.7%で、うち 7 割が「6 年以上ぶり」に賃上げを実施したなど、企業の業績回復を背景に賃上げの動きが広まっています。

雇用環境についても、2013 年の完全失業率は前年から 0.3%改善して 4.0%、直近の 2014 年 4 月は 3.6%（総務省発表）、また、有効求人倍率も 2013 年は 0.93 倍と前年から 0.13 ポイント改善し、2014 年 4 月では 1.08 倍と 17 カ月連続で改善（厚生労働省発表）が続いているように、環境の改善が見られます。

なお、政治・経済以外でも、「富士山の世界文化遺産の登録」や「2020 年の東京オリンピックの決定」など、明るい話題が多かったように感じます。

### ■ 2014 年サラリーマンのお小遣い調査

今年の「サラリーマンのお小遣い調査」は、2 年ぶりにお小遣い額が回復して、前年比 1,115 円増加の 39,572 円となりました。また、昼食代、飲み代も 2 年連続で上昇して、昼食代は前年比 23 円増の 541 円、1 回の飲み代は前年比 8 円増の 3,483 円となりました。しかしながら、その実態としては、お小遣い額はまだ過去 4 番目に低い水準のまま、昼食代はワンコイン+消費税 8%の基準、飲み代もほぼ横ばいとなっています。しかも、平均を引き上げているのは 20 代、30 代の若年層ではなく、40 代、50 代が中心となっており、若年層のお小遣い額や昼食代、飲み代などの金額は 40 代、50 代と比較すると低い傾向が続き、二極化が進んでいることがわかりました。

このように、アベノミクスがサラリーマンのお小遣いに与える影響は限定的で、お小遣い面からみた日常生活のゆとり度は全体的に苦しい感が強まっています。今年のお小遣い額は、昨年の予想通り、急激な回復はありませんでした。消費者物価が上昇し、消費税増税により出費も増えるため、お小遣いも増やさざるを得ない状況にあります。来年もお小遣い額は増えると予想していますが、20 代、30 代は消費税の負担感が強く、節約の傾向も強いことから、消費意欲は他の世代よりも低いと考えられ、お小遣い額については、今年と同様に 40 代、50 代がけん引する状況が続くと思われま。

今年の調査から、女性会社員も 20 代から 50 代までに調査対象範囲を広げて、サラリーマン（男性会社員）との比較ができるようにしました。女性会社員の主な調査結果も併記していますので、合わせてご覧ください。

### ＜調査設計＞

- ◆ 調査時期                    2014年4月23日から4月25日の3日間
- ◆ 調査方法                    インターネットによる調査（専門の調査会社に依頼し、全国からサンプルを収集）
- ◆ サンプル数                 合計2,378名（全国の男性会社員約1,048名、女性会社員536名、  
男性・女性パート・アルバイト約794名）
- ◆ サンプル内訳              （上段：人数 下段：%）

世代別		20代	30代	40代	50代	合計
男性会社員	実数	262	262	262	262	1048
	比率	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	100%
女性会社員	実数	134	134	134	134	536
	比率	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	100%
男性パート・アルバイト	実数	263	263	-	-	526
	比率	50.0%	50.0%	-	-	100%
女性パート・アルバイト	実数	134	134	-	-	268
	比率	50.0%	50.0%	-	-	100%

未既婚		未婚	既婚	合計
男性会社員	実数	421	627	1048
	比率	40.2%	59.8%	100%
女性会社員	実数	332	204	536
	比率	61.9%	38.1%	100%
男性パート・アルバイト	実数	478	47	525
	比率	91.0%	9.0%	100%
女性パート・アルバイト	実数	147	121	268
	比率	54.9%	45.1%	100%

子どもの有無		子どもあり	子ども無し	合計
男性会社員	実数	494	554	1048
	比率	47.1%	52.9%	100%
女性会社員	実数	147	389	536
	比率	27.4%	72.6%	100%
男性パート・アルバイト	実数	28	497	525
	比率	5.3%	94.7%	100%
女性パート・アルバイト	実数	87	181	268
	比率	32.5%	67.5%	100%

パートナー就業		共働き・パート	無職/専業主婦	合計
男性会社員	実数	337	290	627
	比率	53.7%	46.3%	100%

※ 「パートナー就業状況」の%では母数は627人（=既婚者総数）

世帯年収		300万円未満	300~500万円未満	500~700万円未満	700~900万円未満	900~1500万円未満	1500万円以上	合計
男性会社員	実数	125	308	251	162	161	41	1048
	比率	11.9%	29.4%	24.0%	15.5%	15.4%	3.9%	100%

- ★ 表・グラフ内の数字は、特に注記がない場合は全て円です。
- ★ 「サラリーマンのお小遣い調査30年白書」（平成24年9月24日リリース）の発表にともない、過去の調査結果に関する数字は30年白書のものに統一しています。
- ★ 調査対象のサンプルは毎年異なります。
- ★ 本年度より女性会社員の40代・50代も調査対象とし、男性会社員との比較を掲載しています。
- ★ 表の緑の網掛けは、2011年より追加調査を行っている20代~30代の男性・女性パート・アルバイト（793名）の対象者です。
- ★ 6ページからの調査結果は、サンプルのうち、全国の男性会社員1,048名、女性会社員536名の調査結果をまとめたものです。

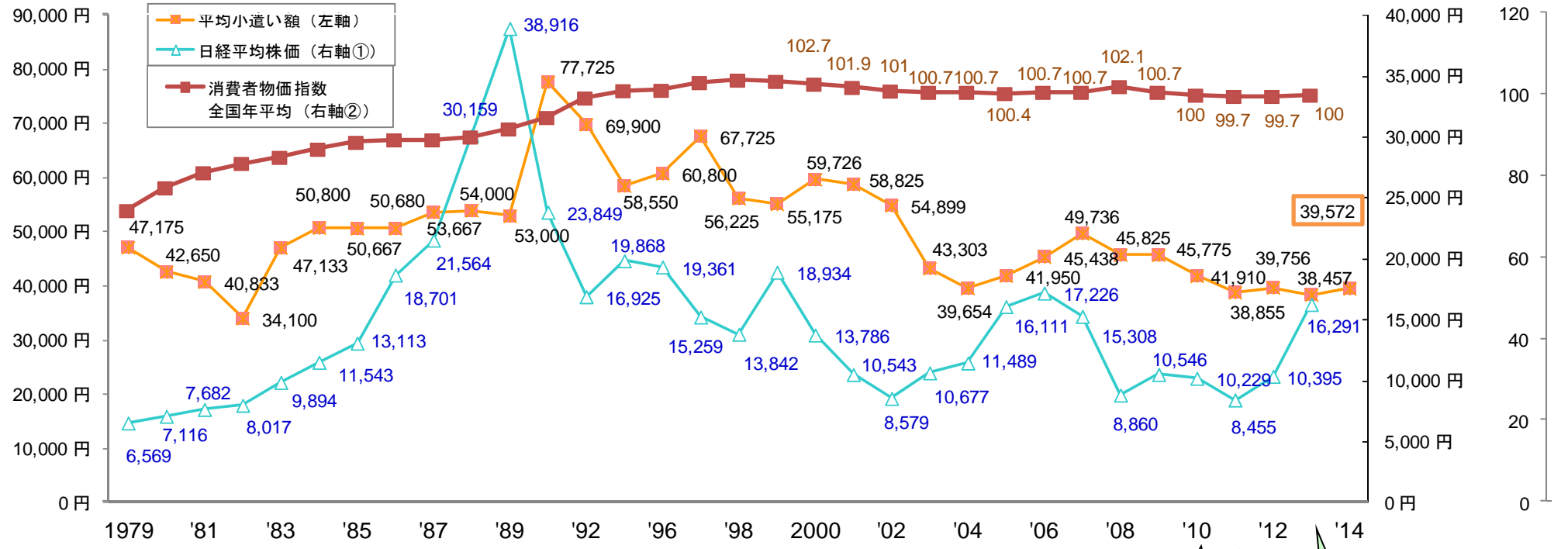
## ＜調査結果の概要・目次＞

＜2014年調査結果について＞ .....	2
＜調査設計＞ .....	3
＜調査結果の概要・目次＞ .....	4
<b>【1】サラリーマンのお小遣い額</b> .....	<b>6</b>
・平均お小遣い額は39,572円となり、2年ぶりに前年比1,115円上昇したが、リーマンショック前の水準（2008年の45,825円）までにはおよばず。	
・1979年の調査開始以降、過去4番目に低い金額。	
・20代・30代は厳しい一方、40代・50代がけん引し、二極化が進む。	
・女性会社員のお小遣い額は、男性会社員より2,860円低い36,712円。	
<b>【2】サラリーマンの昼食事情</b> .....	<b>10</b>
・昼食代は2年連続で上昇して541円となったが、ワンコイン＋消費税8%の水準。	
・持参弁当の割合は昨年に引き続き増加傾向。	
・昼食にかかる時間は、2012年から2年連続で上昇し、平均22.1分。	
・今の昼食に満足している人は69.1%。ランチ代の低い20代の満足度がトップ。	
<b>【3】サラリーマンの飲み事情</b> .....	<b>14</b>
・1回の飲み代は9円増えて、昨年並みの3,483円。	
・1か月の飲み回数は0.2回増えて2.4回。	
・月の飲み代（飲み代×回数）は、770円増えて8,459円となり2年連続の上昇。	
・家飲みは引き続き増加。飲酒店舗の重視ポイントは「おいしさ」と「雰囲気」が増え、「質を重視」する傾向。	
<b>【4】お小遣いの使い道、やりくり術</b> .....	<b>18</b>
・お小遣いの使い道のトップ3は、「昼食代」51.4%、「飲み代」34.8%、「趣味の費用」32.3%。	
・時間とお金をかけているものは、「旅行・アウトドア」28.2%、「コミュニケーション・癒し」20.6%、「文化系（その他）」16.8%の順。	
・67.7%が何らかのお小遣いの節約策をとっており、トップは「昼食費を安くする」24.5%	
・一方、節約しても足りなくなってしまう時は「使わずに我慢」が68%	
<b>【5】消費税の負担感・お小遣いに影響する不安要素</b> .....	<b>23</b>
・消費税に負担を感じている人は、過去最大の73%	
・増税による負担増の対策を立てる人は60.8%で、「お小遣いを節約」する方法がトップ	
・「アベノミクス」による景況感、景気が悪くなったと感じる人がやや優勢	
・一方、日本の政治や景気に関する不安は継続して低下傾向	
<b>【6】お小遣いアップの可能性</b> .....	<b>27</b>
・お小遣いを「上げる予定」は6.3%、「下げる予定」は7.9%で下げる派が優勢。	
・出費増により、お小遣い額は来年も上がる可能性。40代、50代が引き続きけん引するか。	
<b>【7】データ編</b> .....	<b>29</b>

お小遣い額 (単位=円)

日経平均株価、消費者物価指数とサラリーマンの平均お小遣い額の推移(1979年～2014年)

①日経平均株価 (単位=円)  
②消費者物価指数



'82 東北新幹線開通  
500円硬貨発行

'83 東京ディズニーランド開業  
ファミコン発売

'90 消費税導入  
平均株価史上最高値  
(バブル経済絶頂期)

'96 阪神淡路大震災  
金融破綻相次ぐ

'00 iモード人気  
地域振興券配布  
商工ローン問題

'03 小泉政権誕生  
米国同時多発テロ

'08 リーマン・ブラザーズの破綻による世界的金融危機

'10 政権交代で  
民主党政権誕生

'11 東日本大震災  
円高の進行

'12 社会保障・税一体改革関連法成立  
安倍内閣発足

'13 アベノミクスによる円安進行、株価の回復  
TPP 交渉参加を表明  
富士山が世界文化遺産に登録  
消費税引き上げ閣議決定

※ 1978年以前と、1991年及び1993年、1994年については調査を実施していません。  
※ グラフ中の日経平均株価は、年次データの終値を表記しています。

## 【1】サラリーマンのお小遣い額

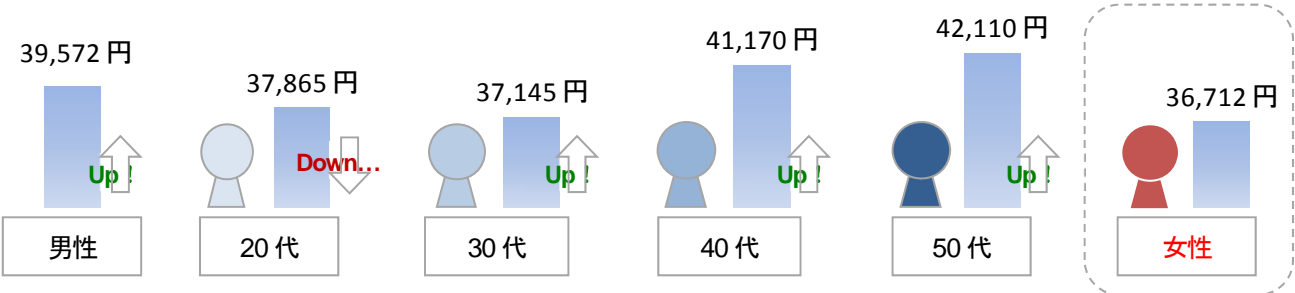
- 平均お小遣い額は 39,572 円となり、2 年ぶりに前年比 1,115 円上昇したが、リーマンショック前の水準（2008 年の 45,825 円）までにはおよばず。
- 1979 年の調査開始以降、過去 4 番目に低い金額。
- 20 代・30 代は厳しい一方、40 代・50 代がけん引し、二極化が進む。
- 女性会社員のお小遣い額は、男性会社員より 2,860 円低い 36,712 円。

### ■ 月の平均お小遣い額 ～ 全体平均はアップ！でも 20 代だけ減少… 40 代 50 代は 4 万円台に ～

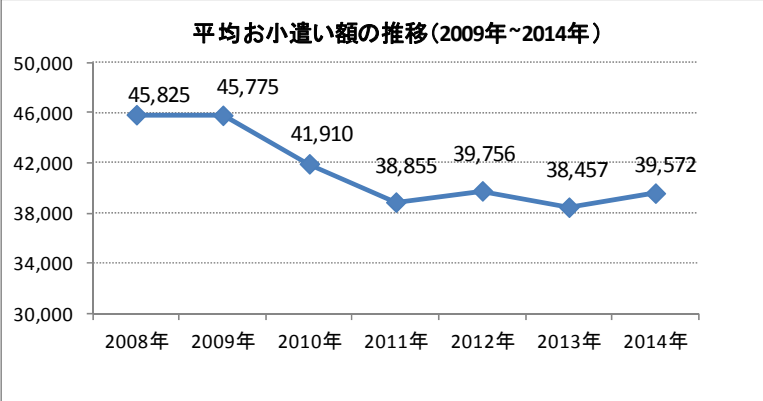
男性会社員の月の平均お小遣い額は、昨年の 38,457 円から 1,115 円増加して 39,572 円となりましたが、リーマンショック前の水準（2008 年の 45,825 円）までにはおよばず、1979 年の調査開始以降、過去 4 番目に低い金額です（最低額は 1982 年の 34,100 円）。また、今年から調査範囲を拡大した女性会社員の 20 代から 50 代の平均お小遣い額は、男性より 2,860 円低い 36,712 円でした。

30 年以上のデータの蓄積がある当調査からは、バブル崩壊後は、お小遣い額は日経平均株価に 1 年から 2 年遅行する形で相関が見られましたが、2000 年以降は消費者物価指数（CPI）との相関が高くなっています。2013 年は株式市場の活況が続き、2012 年の終値 10,395 円を大きく上回って、日経平均株価も 16,291 円となりました。しかし、2014 年のお小遣い額をみると、株価との相関は引き続き限定的で、物価上昇に比例して増えているようです。

設問： あなたの 1 か月の小遣いはいくらですか？（昼食代含む）



「男性」と「20 代」から「50 代」は男性会社員全体と世代別の、「女性」は 20 代～50 代の女性会社員全体の、平均お小遣い額。



男性会社員全体の平均お小遣い額 (2008 年～2014 年)



世代別では、近年は2007年以降、20代のお小遣い額の減少が止まらず、2014年についても、前年比615円減と唯一の減少となりました。一方、40代と50代はリーマンショック後の2011年を底に3年連続で増加し、2014年は41,000円を超えました。2012年に50代のお小遣い額が20代を逆転して上回ってから、その世代格差が広がる傾向にあります。

未婚別では、既婚子どもあり層のお小遣い額が5,441円増えて34,963円となり、既婚子どもなし層の37,617円との差は引き続き縮まっています。(7章のデータ編参照)

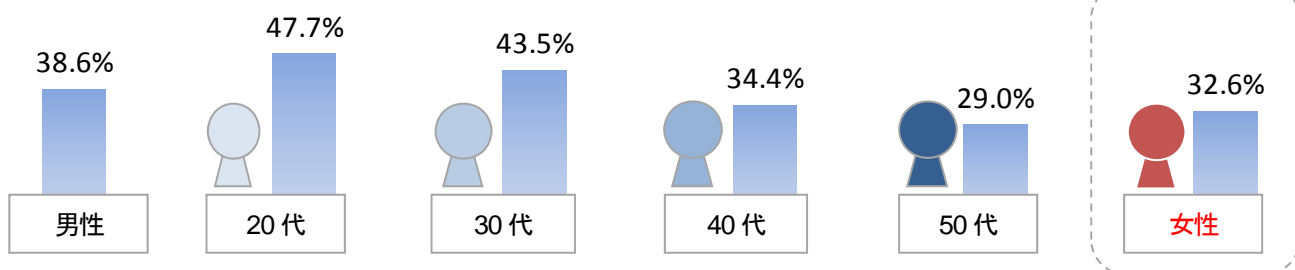
■ **昇給の状況とお小遣いとの関係** ～ 昇給があった割合が増加。お小遣いアップのカギは昇給にあり～

2008年の調査開始以来、一貫して減少してきた「昇給あり」は今回初めて増加に転じました(2.7%増加の38.6%)。現状維持は56%で、減ったとした割合は昨年から微増の5.3%となりました。年代別では、20代、30代の昇給ありの割合が大きく、それぞれ47.7%、43.5%となっています。

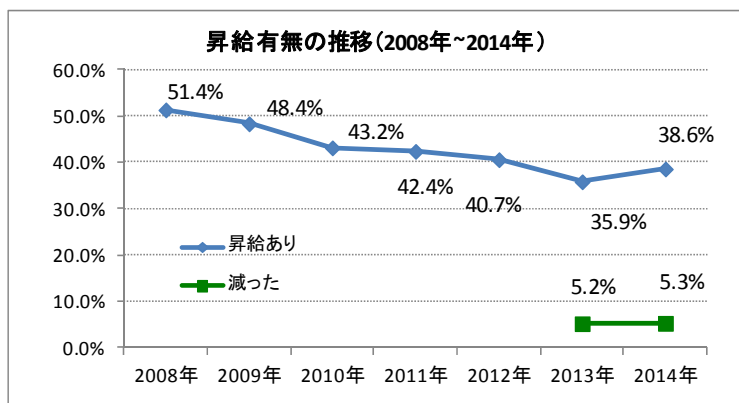
なお、女性社員の「昇給あり」は男性社員より6.0%低い32.6%となりました。

設問： この1年(2013年4月～2014年3月)の間に昇給はありましたか？

【昇給があったと回答した割合】



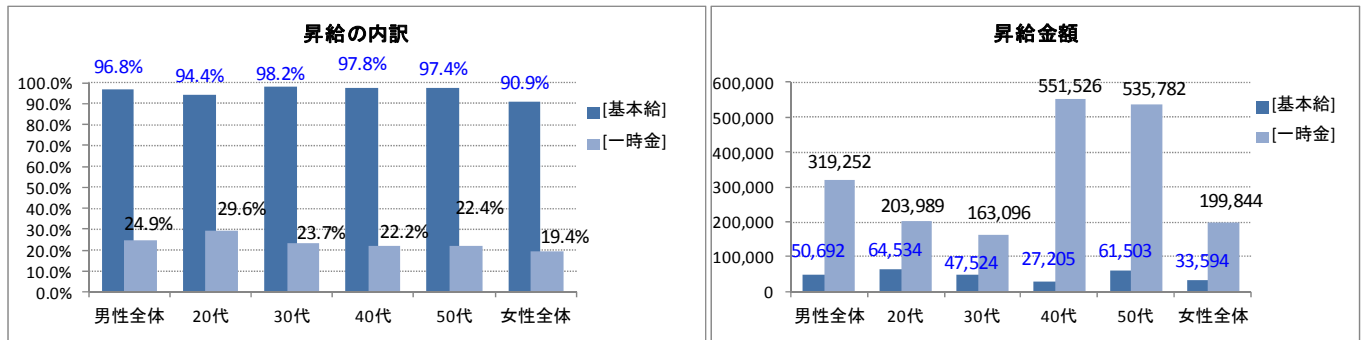
「男性」と「20代」から「50代」は男性社員全体と世代別の、「女性」は20代～50代の女性社員全体の、「昇給あり」の割合



男性社員全体の昇給有無の推移 (2008年～2014年)

続いて、昇給の内訳と金額をみてみます。

設問： 昇給があったと答えた方は、それぞれのどのくらい昇給がありましたか？

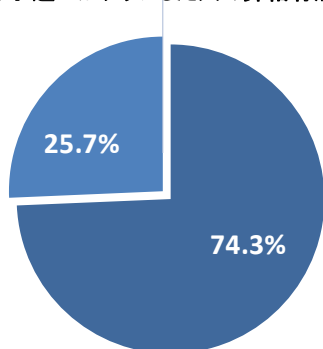


「男性全体」と「20代」から「50代」は男性会社員全体と世代別の、「女性全体」は20代～50代の女性会社員全体の、「昇給した」と回答した人の昇給内容（基本給、一時金）の割合と、それぞれの金額の平均。

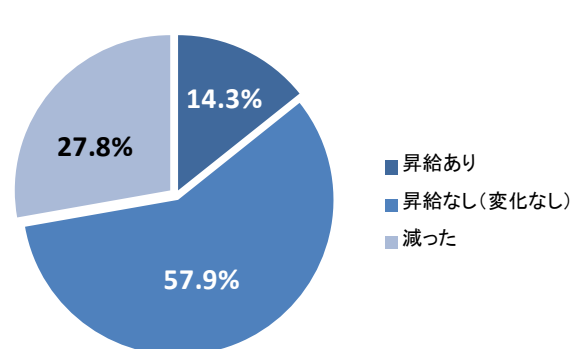
男性会社員全体では、基本給の昇給があった人は96.8%、一時金の昇給があった人は24.9%となりました。世代別では、20代が他の世代に比べて基本給が上がったとした割合が94.4%と低く、また、一時金の割合が29.6%と高めになっています。男性会社員全体について、基本給と一時金のそれぞれの金額は月の基本給が319,252円、一時金は50,692円となっています。世代別にみた場合、特に一時金について、20代(203,989円)、30代(163,096円)に対し、40代(551,526円)と50代(535,782円)の昇給金額が高くなっており、ここでもお小遣い額と同様に40代、50代と20代、30代の格差が表れています。

最後に、昇給の有無とお小遣いの関係性を見てみます。「お小遣いがアップした」と回答した人のうち昇給ありが占める割合は74.3%と高く、給与が減ったと回答した人は0%でした。逆に「お小遣いがダウンした」と回答した人のうちの27.8%は給与が減ったと回答しています。やはりお小遣いアップの条件として昇給が大きく影響していることがわかります。とはいえ、「お小遣いがダウンした人」の中にも昇給した人が14.3%も含まれているため、例え昇給があったとしても財布のひもは締める、ということなのかもしれません。

お小遣いがアップした人の昇給有無



お小遣いがダウンした人の昇給有無



男性会社員全体のうち、お小遣いがアップした/ダウンしたと回答した人の昇給の有無の内訳

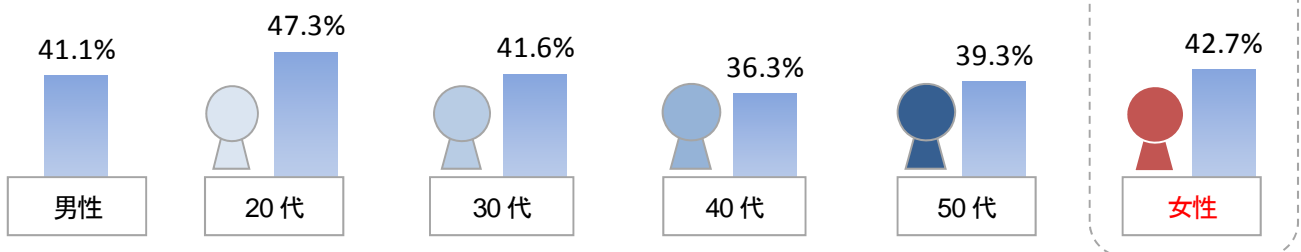
## ■ お小遣いにおけるゆとり実感 ～ お小遣いが上がってもゆとり度は低下 ～

最後にお小遣いにおけるゆとり実感をみてみます。

お小遣い面からみた日常生活のゆとり度は、苦しい派（「やや苦しい」、「大変苦しい」の合計）の58.9%に対して、ゆとりがある派（「大いにゆとりがある」、「まあまあゆとりがある」の合計）は昨年から4.1%減って41.1%となり、苦しい感が強まりました。

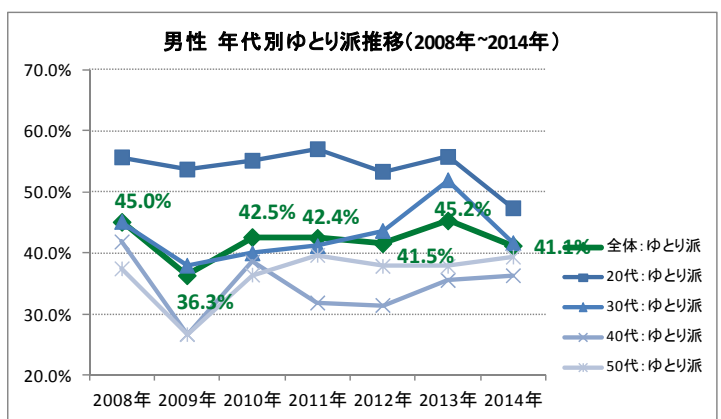
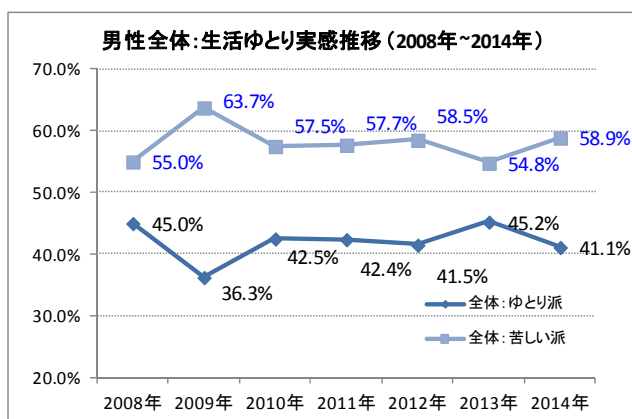
設問：お小遣い面からみて、この一年間のあなたの日常生活はいかがですか？

### 【ゆとりがある派の割合】



「男性」と「20代」から「50代」は男性社員全体と世代別の、「女性」は20代～50代の女性社員全体の、「大いにゆとりがある」と「まあまあゆとりがある」と回答した人の合計の割合。

年代別では、20代、30代のゆとり派が40代、50代よりも多くなっていますが、お小遣い額が下がった20代と、世代別でお小遣い額が最低だった30代の「ゆとり度」は、2013年に比べると大幅に下がりました。また、40代、50代は苦しい派が引き続き優勢（それぞれ63.7%、60.7%）となっておりますが、2014年はゆとりがある派が若干回復したため、20代、30代との差は縮まる傾向にあります。



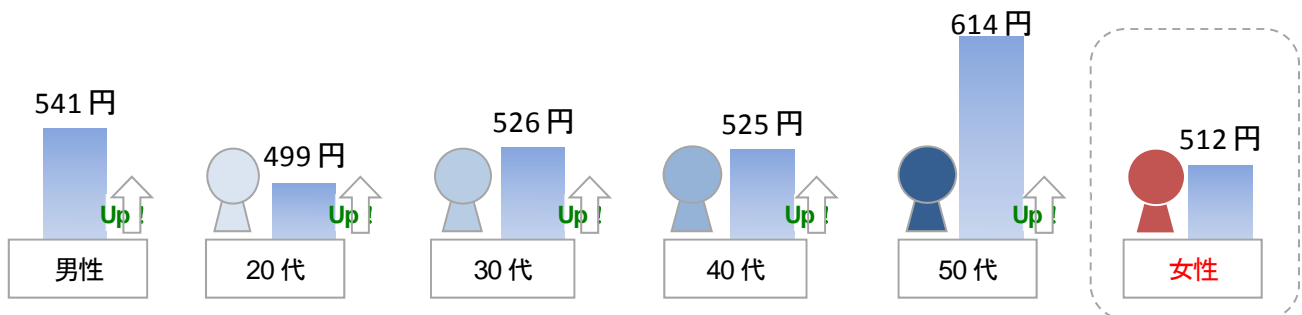
## 【2】サラリーマンの昼食事情

- 昼食代は2年連続で上昇して541円となったが、ワンコイン+消費税8%の水準。
- 持参弁当の割合は昨年に引き続き増加傾向。
- 昼食にかかる時間は、2012年から2年連続で上昇し、平均22.1分。
- 今の昼食に満足している人は69.1%。ランチ代の低い20代の満足度がトップ。

### ■ 一日の平均昼食代 ～ 昼食代はアップするも、ワンコインランチの傾向が続く ～

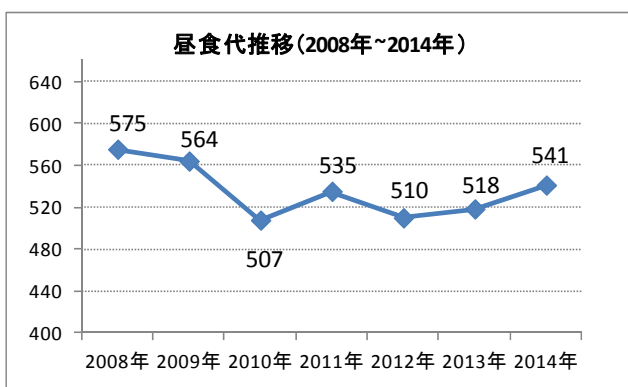
男性会員の昼食代は昨年より23円上がって541円となり、2年連続で上昇しました。しかし、500円+消費税8%の水準で、ワンコインランチの傾向が続いています。また、女性会員の平均は男性より29円低い512円となりました。

設問：あなたの昼食代（勤務日）は平均すると1回いくらですか？（弁当持参時を除く）



男性会社員全体と世代別の一日の平均昼食代。女性全体は、20代～50代の女性会社員全体の平均額。

男性会員の昼食代は全世代で昨年からアップしましたが、中でも50代は36円増加して614円となり、世代別で唯一の600円台となりました。一方、20代はお小遣い額と同様に低い傾向があり、唯一500円に届いていません。未婚層は517円と節約傾向である一方、既婚子無し層が583円となり平均を押し上げています。（7章のデータ編参照）

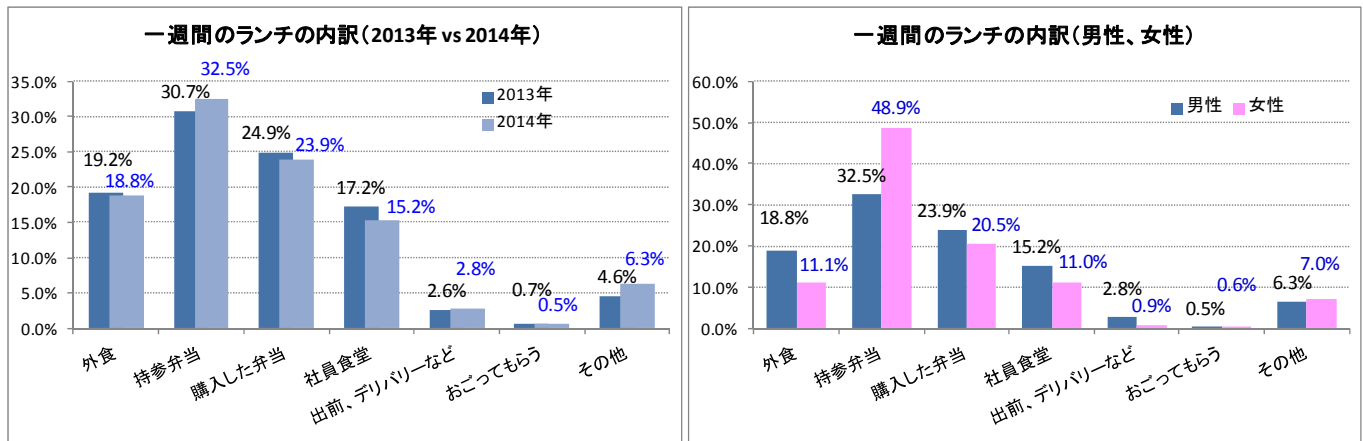


男性会社員全体の昼食代推移（2008年～2014年）

## ■ 昼食の内訳 ～ トップ3は持参弁当、購入弁当、外食の順。未婚者層は購入弁当が逆転してトップ～

昼食の内訳のトップ3は、「持参弁当」32.5%、「購入した弁当」23.9%、「外食」18.82%の順で、2009年以降、1位と2位の順位に変動はありませんが、一週間のランチに占める持参弁当の割合は昨年引き続き増加しています。また、女性社員は、持参弁当が48.9%と男性よりも高く、逆に、外食の比率は11.1%と男性社員と比較して低いことも特徴です。

設問：あなたの平均的な一週間の昼食（勤務日）のそれぞれの回数の内訳を教えてください。



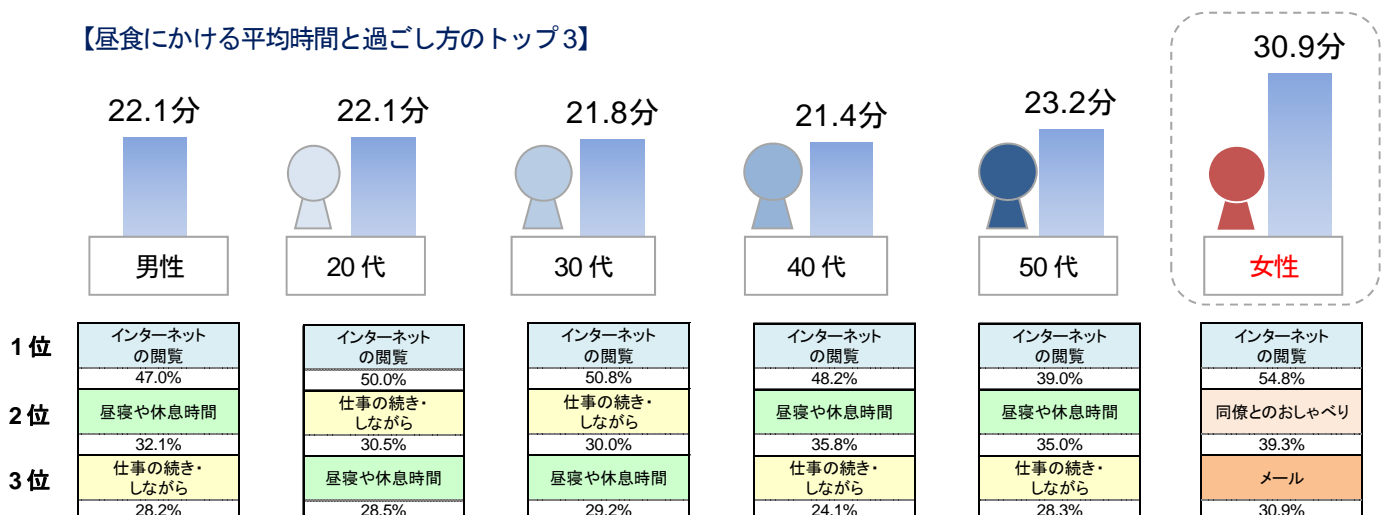
左図は男性社員全体の2013年との比較、右図は男性全体と女性社員との比較。昼食の回数の合計を100%として、それぞれの回数の割合を%で表示。

未婚の内訳で見ると、既婚者層は「持参弁当」の割合が38%と高くなっていますが、未婚者層は「購入した弁当」の割合が31.1%と高く、1位と2位が逆転しています。(7章のデータ編参照)

## ■ 昼食にかかる時間と過ごし方 ～ 昼休憩は平均22.1分に上昇。男性社員は一人の時間や仕事を重視～

設問：  
 ・昼食（勤務日）にかかる時間は平均して、どのくらいですか？  
 ・あなたのランチタイムの過ごし方としてあてはまるものをお答えください。

### 【昼食にかかる平均時間と過ごし方のトップ3】



「男性」と「20代」から「50代」は男性社員全体と世代別の、「女性」は、20代～50代の女性社員全体の、平均昼食時間と、過ごし方の上位3位までの項目と割合。

昼食にかかる時間は、過去 1983 年と 1993 年の 2 回と、2012 年から今年まで計 5 回の調査を行っています。1993 年の 19.6 分を底に、昨年から 2 年連続で上昇して、今年は平均 22.1 分となりました。ランチタイムに少し余裕が持てるようになってきたのかもしれませんが、1983 年の 33 分にはまだ届いていない状況です。費やす時間のボリュームゾーンは 11 分から 30 分の間で、また、2%の人が食べないと回答しています。年代別では 50 代の 51~60 分が 11.1%と他の年代に比べて高いことと、女性社員の平均が 30.9 分と、男性社員よりも 8.8 分長いことが特徴です。

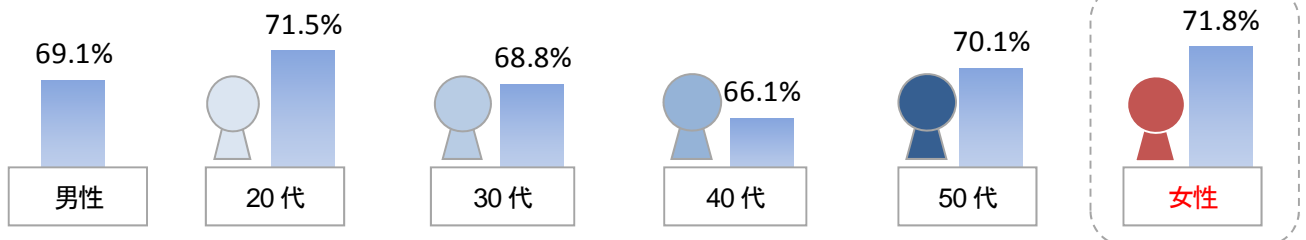
男性社員のランチタイムの過ごし方のトップ 3 は、「インターネット閲覧」、「昼寝・休憩」、「仕事の続き・しながら」の順で、「同僚とのおしゃべり」は昨年の 22.2%から 18.8%へ下がっており、同僚とのコミュニケーションよりも一人の時間を過ごす傾向が見られます。反対に、女性社員は「同僚とのおしゃべり」や「メール」の比率が男性の倍近くあり、コミュニケーションの時間に当てていることが分かります。(7 章のデータ編参照)

## ■ 昼食の満足度 ～ ランチ代の低い 20 代の満足度がトップ ～

そんなランチタイムですが、いまの昼食に満足しているかを聞いたところ、満足派（「大いに満足している」と「まあまあ満足している」の合計）は 69.1%、不満足派（「多少不満がある」と「大いに不満がある」の合計）は 30.9%となりました。昨年の満足派は 71.6%であり、今年も満足派が高い割合を占める状況が続いています。

設問：あなたはいまの昼食に満足していますか？

### 【満足派の割合】



「男性」と「20代」から「50代」は男性社員全体と世代別の、「女性」は20代～50代の女性社員全体の、「大いに満足している」と「まあまあ満足している」の合計の割合。

男性社員の世代別では、ランチ代が最も低い 20 代が、満足派が最も高くなっており、しかも「大いに満足」が 25.8%と年代別で一番高くなっています。

現在の昼食に対しての満足、不満足それぞれの理由も聞いていますのでいくつかご紹介します。

### 【持参弁当派】 満足派は安上がり・健康管理、不満足派は仕方なく・ワンパターンなど

#### 満足派：

- 「一番金もかからないし自分で健康管理ができる」(23 才 未婚男性)
- 「愛妻弁当で自分の好きな食材のおかずだから。」(54 才 既婚男性)、
- 「昼はあまり食事に関心がなく、手軽で素早く食べられるおにぎりなどを持参」(26 才 未婚男性)

- 「お弁当つくるのが楽しくなってきたので。節約にもなります。」(26才 既婚女性)

**不満足派：**

- 「給料があがらなくて、おいしいものが食べられない。」(35才 既婚女性)
- 「弁当がワンパターンであきている」(40才 既婚男性)

**【外食派】 満足派は好きなものが食べられる、不満足派は値上げなどの金銭面など****満足派：**

- 「息抜きができるから」(40才 未婚女性)
- 「好きなものを食べられるから」(26才 未婚男性)

**不満足派：**

- 「消費税と便乗値上げによって、すごく値段が上がった」(46才 未婚男性)
- 「外食なのでお金がかかり、バランスも悪い」(37才 既婚男性)
- 「外回りのため、外食にせざるを得ないので、金銭的にきつく、健康のためにも良くない」(26才 未婚女性)

**【社員食堂派】 満足派は価格と量、不満足派は味や値段・ワンパターンなど****満足派：**

- 「価格と量に満足している」(31才 未婚男性)
- 「社員食堂のメニューが日替わりで飽きない」(27才 未婚男性)
- 「無料で、味、ボリュームとも充分」(54才 既婚男性)
- 「健康管理されていて、カロリーも低いから」(22才 未婚女性)

**不満足派：**

- 「社食がおいしくない」(36才 既婚女性)
- 「食堂が混雑。外で食べた方が安い外に出る時間が無い。」(54才 既婚男性)
- 「社員食堂なのに高い、値段に見合った質でない」(25才 未婚男性)
- 「おなじメニューの繰り返し」(54才 既婚男性)

**【購入弁当派】 満足派は****満足派：**

- 「ダイエットしていて、ほとんど食べないので特に不満も発生しない。」(50才 既婚男性)
- 「安くておいしくボリュームがある」(39才 未婚男性)
- 「小食なので、弁当だと余るので食べ切りの食品を買う」(29才 未婚女性)
- 「昼食にはお金をかけたくないの。」(24才 未婚女性)

**不満足派：**

- 「飲み物を買うと主食しか買えず、栄養バランスが悪い」(48才 未婚女性)
- 「飲食店が近くにないためコンビニなどの弁当になっている」(40才 既婚男性)
- 「コンビニ弁当は健康に悪い上に飽きる」(23才 未婚男性)

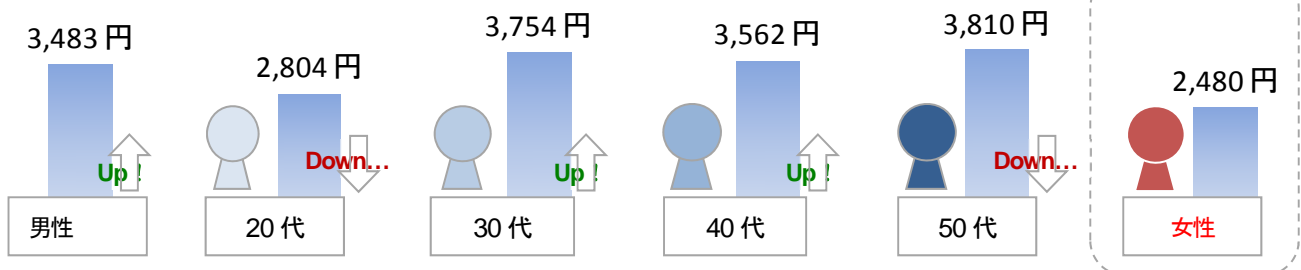
### 【3】サラリーマンの飲み事情

- 1回の飲み代は9円増えて、昨年並みの3,483円。
- 1か月の飲み回数は0.2回増えて2.4回。
- 月の飲み代（飲み代×回数）は、770円増えて8,459円となり2年連続の上昇。
- 家飲みは引き続き増加傾向。飲酒時の利用店舗を選ぶ際に重視するポイントは「おいしさ」と「雰囲気」が増え、「質を重視」する傾向。
- 女性社員の1回の飲み代は男性より約1,000円低い2,480円、月の飲み代は男性より3,200円ほど低い5,255円。

#### ■ 1回の飲み代 ～ 昨年から9円増えて3,483円。20代は唯一の2千円台に ～

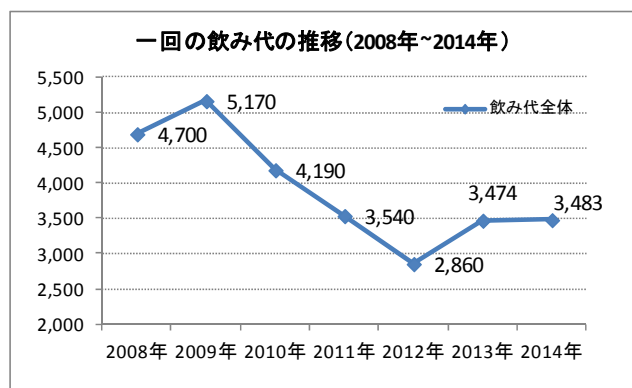
男性社員の1回の飲み代は、昨年から9円増えて3,483円となり、ほぼ横ばいでした。金額としては、1999年の調査開始以来、4番目に低い水準となっています。（最低額は2012年の2,860円、2番目は1999年の2,967円。）

設問：あなたの飲み代は平均すると1回いくらですか？



「男性」と「20代」から「50代」は男性会社員全体と世代別の、「女性」は20代～50代の女性会社員全体の、1回の平均飲み代。

年代別では、20代が飲み代でも最も低く、2,804円と唯一の2千円台となっています。未婚別では、未婚の2,940円に対して、既婚は3,847円となっており、お小遣い額とは逆に既婚者層の飲み代が高くなっています。女性社員の平均は男性社員の飲み代から約1,000円低い2480円。男性とは逆に、20代の女性社員の独身者層が3,333円と飲み代にかけられる費用が高くなっています。（7章のデータ編参照）



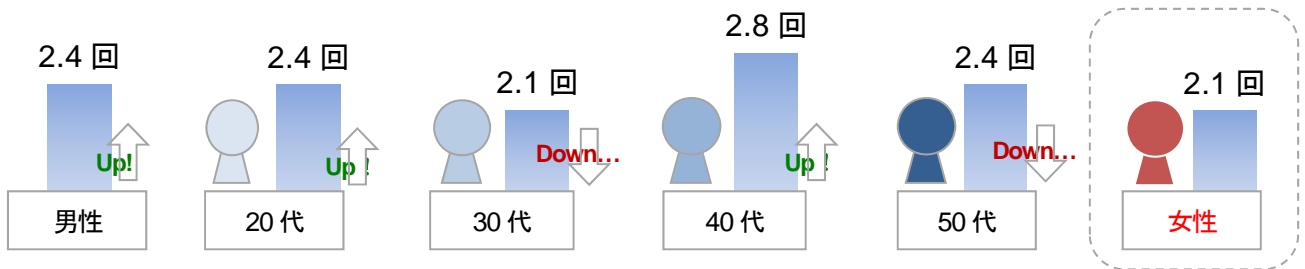
男性会社員全体の1回の飲み代推移（2008年～2014年）



## ■ 1か月の飲み回数 ～ 飲み代の低かった20代が回数アップ。40代は月3回に迫る2.8回 ～

男性会員の1か月の平均飲み回数は、昨年から0.2回増えて2.4回となりました。

設問：仕事が終わった後、1か月で平均何回くらいお酒を飲みに行きますか？

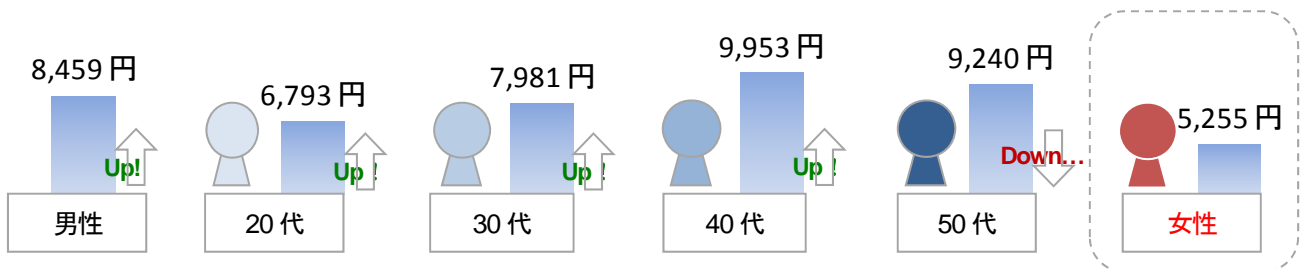


「男性」と「20代」から「50代」は男性会社員全体と世代別の、「女性」は20代～50代の女性会社員全体の、1か月の平均飲み回数。

年代別では、20代と40代は昨年の2.0回からそれぞれ0.4回、0.8回増えて、2.4回、2.8回となっており、20代の未婚者層では2.9回となり、1回の飲み代を抑えながら回数を増やしているようです。(7章のデータ編参照)

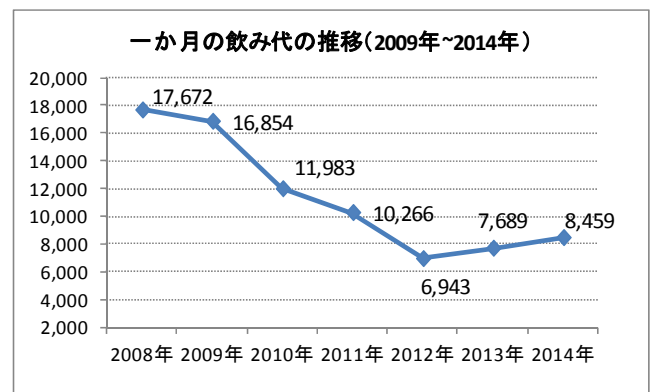
## ■ 1か月の飲み代 ～ 2年連続の上昇で8,459円に。40代は1万円に迫る ～

1回の飲み代と月の飲み回数から算出した1か月の飲み代は、770円上がって8,459円となり、2年連続の上昇となりました。



「男性」と「20代」から「50代」は男性会社員全体と世代別の、「女性」は20代～50代の女性会社員全体の、1か月の飲み代。

世代別ではお小遣い額と同様に、40代、50代の金額がそれぞれ9,953円、9,240円となっており、20代の6,793円との世代間格差が大きくなっています。女性会社員は、1か月の飲み代は5,255円と男性よりも3,200円ほど低くなっていますが、女性会社員の世代別では、男性とは逆に20代、30代の飲み代が高くなっており、特に未婚者層ではその傾向が顕著に表れています。(7章のデータ編参照)



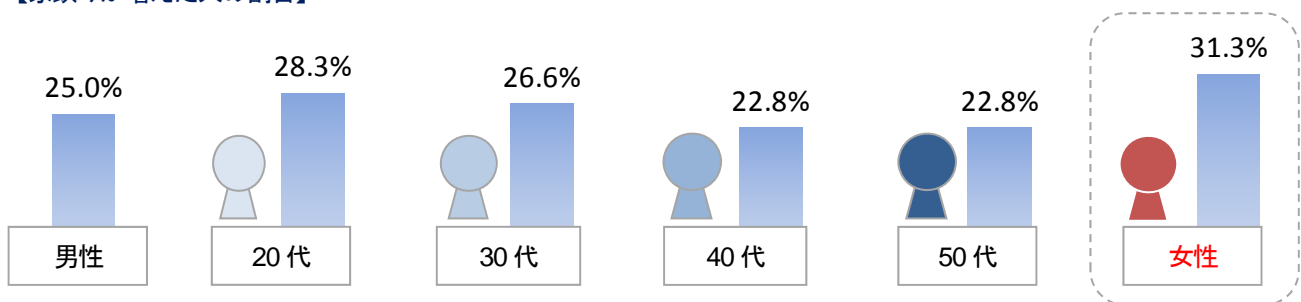
男性会社員全体の1か月の飲み代推移(2008年～2014年)

## ■ 家飲みの変化 ～ 家飲みは増加傾向が続く。20代、30代は高い増加率 ～

自宅でお酒を飲むことがあると答えた人のうち、家飲みが増えた人は25%で、減ったと回答した5.9%を上回って、家飲みが増加傾向にあります。

設問： 自宅でお酒を飲むことについて、ここ一年間でどのように変わりましたか？

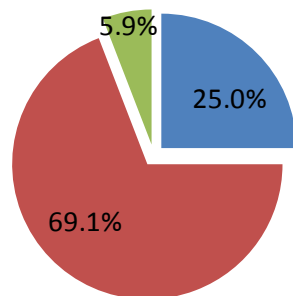
【家飲みが増えた人の割合】



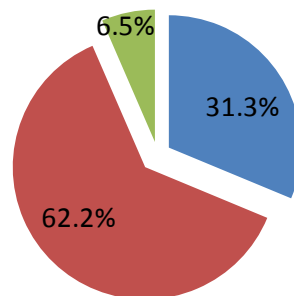
自宅でお酒を飲むことがある人のうち、「男性」と「20代」から「50代」は男性会社員全体と世代別の、「女性」は20代～50代の女性会社員全体の、「家飲みが増えた」と回答した割合。

年代別では、20代、30代の家飲みが増えた割合の増加率が高い一方、20代においては自宅飲みが減ったと答える割合も12.8%と高くなっており、若者は家飲みのスタイルに対して一定の流出入があるようです。女性会社員については、男性に比べて家飲みが増えた割合が31.3%と高く、特に20代では38.4%が増えたと回答しており、女性は積極的に家飲みのスタイルを取っていることが分かります。

ここ一年の自宅飲酒の変化(自宅飲む人)  
【男性】



【女性】



■ 自宅飲みが増えた  
■ 変わらない  
■ 自宅飲みが減った

自宅でお酒を飲むことがある人のうち、「男性」は男性会社員全体、「女性」は女性会社員全体の自宅飲酒の変化。

## ■ 飲酒時に利用するお店の重視点 ～ 「料理のおいしさ」が上昇。質も重視する傾向に～

男性会員の居酒屋などお酒を飲むお店を選ぶポイントは、上位から「価格が安い、手頃」が59.6%、「料理がおいしい」が49.7%、「場所が近い、便利」が40.8%となりました。昨年3位だった「料理がおいしい」が2位に浮上し、価格は重視しながらも、質も重視する方向へシフトしています。

設問：お酒を飲みに行く際、あなたがお店を選ぶポイントは主に何でしょうか。下記から三つまでお答えください。

### 【お店を選ぶポイント トップ3】

	男性	20代	30代	40代	50代	女性
<b>1位</b>	価格が安い、手頃である 59.6%	価格が安い、手頃である <b>62.0%</b>	価格が安い、手頃である 54.4%	価格が安い、手頃である 57.7%	価格が安い、手頃である 64.2%	料理がおいしい 69.2%
<b>2位</b>	料理がおいしい 49.7%	料理がおいしい 46.5%	料理がおいしい 47.2%	料理がおいしい 43.2%	料理がおいしい <b>61.7%</b>	価格が安い、手頃である 46.6%
<b>3位</b>	場所が近い、便利である 40.8%	場所が近い、便利である 34.1%	場所が近い、便利である 44.8%	場所が近い、便利である 43.2%	場所が近い、便利である 41.7%	場所が近い、便利である 35.5%

「男性」と「20代」から「50代」は男性会社員全体と世代別の、「女性」は20代～50代の女性会社員全体の、お店を選ぶポイント上位3位の項目と割合。

年代別では、1回の飲み代が最も低かった20代は価格を重視、最も高かった50代は価格と同程度で料理のおいしさを重視する傾向があります。なお、女性会社員では「おいしさ」が断トツのトップとなり、「価格」、「場所」も男性同様重視しながらも、「雰囲気」や「きれいさ」、「長居できる」ことも重視しており、より快適さを求める傾向があります。

今年も調査した「ランチの際にお店を選ぶポイント」と比較すると、男性会社員について、ランチの場合の上位は「価格が安い、手頃」が67.3%、「場所が近い、便利」が40.2%、「料理がおいしい」が33.6%となっており、料理のおいしさは3位になっているものの、昨年の27%から33.6%へ上昇しています。お酒を飲む際のお店のポイントも同様に質を求める動きが見られるため、近年は飲食店に求める価値観が価格とともに質も重視する方向へ変化しているようです。(7章のデータ編参照)

## 【4】お小遣いの使い道、やりくり術

- お小遣いの使い道のトップ3は、男性会社員は「昼食代」51.4%、「飲み代」34.8%、「趣味の費用」32.3%。女性会社員は「身だしなみ」59.5%、「携帯電話代」52.8%、「ファッション」52.1%。
- 時間とお金をかけているものは、「旅行・アウトドア」28.2%、「コミュニケーション・癒し」20.6%、「文化系（その他）」16.8%の順。
- 67.7%が何らかのお小遣いの節約策をとっており、トップ3は「昼食費を安くする」24.5%、「衝動買いをしない」17.7%、「弁当を持参する」16.7%
- 一方、節約しても足りなくなってしまった時は「使わずに我慢」が68%

### ■ お小遣いの使い道と費用 ～ 今年もトップは昼食代。男女で使い道に大きな違い ～

男性会社員のお小遣いの使い道のトップ3は順に、「昼食代」51.4%、「飲み代」34.8%、「趣味の費用」32.3%となり、昨年3位から2位へ浮上した飲み代が、今回も順位をキープしています。

設問：あなたのお小遣いの使い道として、必要不可欠なものは何ですか？（複数回答可）

#### 【必要不可欠なお小遣いの使い道 トップ5】

	男性	20代	30代	40代	50代	女性
1位	昼食代 51.4%	昼食代 50.4%	昼食代 49.6%	昼食代 50.8%	昼食代 55.0%	身だしなみ費用 59.5%
2位	飲み代 34.8%	携帯電話代 41.6%	携帯電話代 34.7%	飲み代 31.7%	飲み代 40.5%	携帯電話代 52.8%
3位	趣味の費用 32.3%	飲み代 35.5%	飲み代 31.7%	嗜好品代 30.5%	趣味の費用 37.4%	ファッション費用 52.1%
4位	携帯電話代 31.8%	趣味の費用 30.5%	趣味の費用 31.3%	趣味の費用 30.2%	嗜好品代 32.1%	昼食代 48.3%
5位	嗜好品代 30.3%	嗜好品代 27.9%	嗜好品代 30.9%	携帯電話代 25.2%	書籍・雑誌代 26.7%	喫茶代 32.3%

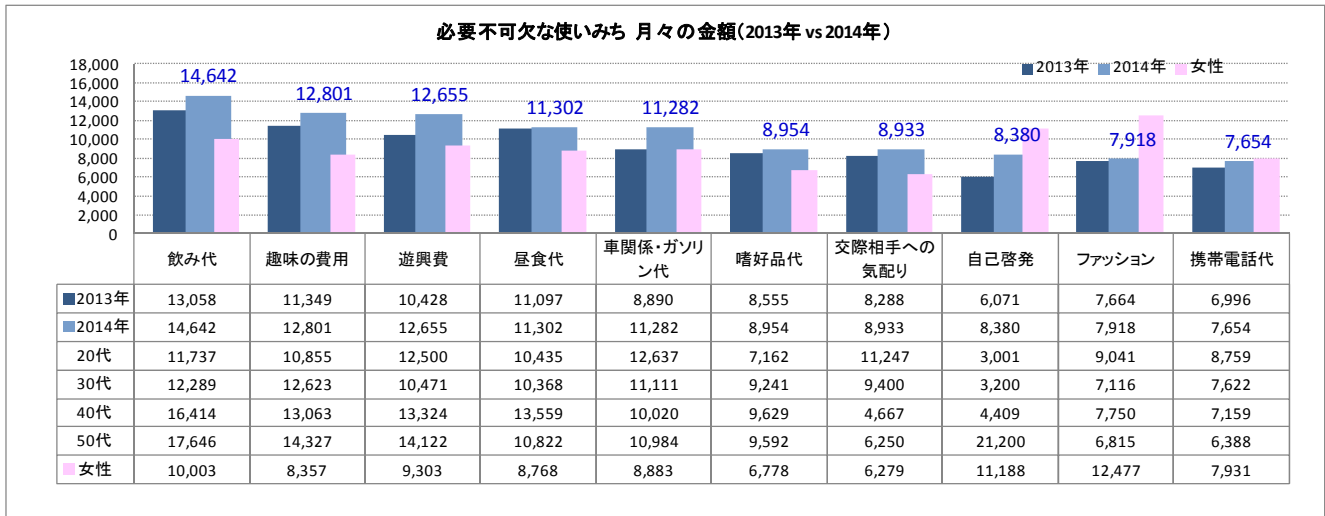
「男性」と「20代」から「50代」は男性会社員全体と世代別の、「女性」は20代～50代の女性会社員全体の、お小遣いの使い道の上位5位までの項目と割合。

世代別では、「飲み代」は、世代が上がるにつれて選択率が高くなり、飲み代が多かった40代と50代にその傾向が強く出ています。逆に20代と30代では、「携帯電話代」が2位に入っており、世代間のギャップが見られます。女性会社員では、上位から「身だしなみの費用」、「携帯電話代」、「ファッション費用」の順となっており、男性と女性の嗜好の違いが表れています。

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
1位	昼食代 48.0%	昼食代 57.2%	昼食代 52.9%	昼食代 51.4%	昼食代 48.8%	昼食代 53.6%	昼食代 51.4%
2位	趣味の費用 42.0%	趣味の費用 50.6%	趣味の費用 45.7%	趣味の費用 48.3%	趣味の費用 40.2%	飲み代 37.0%	飲み代 34.8%
3位	嗜好品代 32.2%	飲み代 44.8%	飲み代 39.0%	嗜好品代 37.0%	飲み代 36.0%	趣味の費用 35.1%	趣味の費用 32.3%
4位	飲み代 28.8%	嗜好品代 42.2%	嗜好品代 35.4%	飲み代 35.9%	携帯電話代 32.9%	携帯電話代 34.0%	携帯電話代 31.8%
5位	書籍・雑誌代 25.8%	書籍・雑誌代 37.2%	書籍・雑誌代 29.7%	書籍・雑誌代 28.8%	車両運・ガソリン代 29.0%	嗜好品代 30.5%	嗜好品代 30.3%
6位	車両運・ガソリン代 21.2%	携帯電話代 27.4%	携帯電話・通信費 29.5%	車両運・ガソリン代 26.6%	書籍・雑誌代 28.5%	書籍・雑誌代 28.1%	車両運・ガソリン代 23.6%
7位	携帯電話代 16.6%	車両運・ガソリン代 25.0%	車両運・ガソリン代 24.9%	携帯電話代 25.1%	嗜好品代 25.9%	車両運・ガソリン代 27.8%	書籍・雑誌代 22.9%
8位	喫茶代 10.4%	身だしなみ費用 22.4%	身だしなみ費用 18.9%	身だしなみ費用 19.4%	パソコン・通信・通送料 21.4%	喫茶代 21.2%	喫茶代 18.3%
9位	身だしなみ費用 8.4%	衣服代 18.8%	衣服代 15.7%	家族への気配り 16.9%	家族への気配り 17.4%	身だしなみ費用 19.5%	身だしなみ費用 17.2%
10位	衣服代 8.0%	家族への気配り 18.6%	家族への気配り 15.3%	衣服代 15.5%	ファッション費用 16.5%	パソコン・通信・通送料 18.1%	ファッション費用 15.6%

男性会社員全体のお小遣いの使い道上位10位までの推移（2008年～2014年）

次にそれぞれの項目で、月々に必要な金額を見てみます。



男性会社員全体と世代別のお小遣いの使い道の上位 10 位までの項目と金額を 2013 年と比べたもの。

「女性」は、男性会社員全体のお小遣いの使い道の上位 10 位の項目について、20 代～50 代の女性会社員全体の金額。

男性会社員については、上位から、「飲み代」14,642 円、「趣味の費用」12,801 円、「遊興費」12,655 円の順となりました。昨年からは昼食代が 3 位から 4 位に順位を下げましたが、その他に大きな順位の変動はありませんでした。また、それぞれの金額が昨年よりも上がる結果となりました。

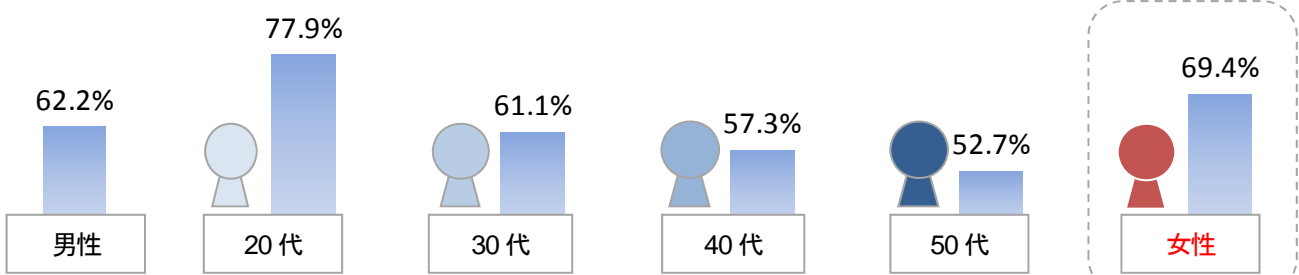
世代別では、20 代と 30 代で 2 位に「携帯電話代」があがっていることと、「交際相手への気配り」が 20 代で 11,247 円と大きくなっているのが特徴です。

## ■ 時間とお金をかけているもの ～ 増えた人は 62.2% で、旅行・アウトドアがトップ ～

男性会社員のお小遣いの使い道のうち、この一年間でお金と時間がかかるものが増えたと回答した人は 62.2% となりました。増えた分野のトップ 3 は、「旅行・アウトドア」28.2%、「コミュニケーション・癒し」20.6%、「文化系（その他）」16.8%の順となっています。

設問： お小遣いの使い道について、ここ一年間で、出費がふえたものや、かける時間が増えたものをいくつかお知らせください。

### 【時間とお金をかけるものが増えた割合】



「男性」と「20代」から「50代」は男性会社員全体と世代別で、「女性」は 20 代～50 代の女性会社員全体で、時間とお金をかけるものが増えたものを選択した人の割合。



1位	旅行・アウトドア・自然 28.2%	旅行・アウトドア・自然 38.2%	旅行・アウトドア・自然 24.8%	旅行・アウトドア・自然 23.7%	旅行・アウトドア・自然 26.3%	コミュニケーション・癒し 35.6%
2位	コミュニケーション・癒し 20.6%	コミュニケーション・癒し 30.2%	文化系(その他) 19.1%	コミュニケーション・癒し 18.3%	コミュニケーション・癒し 15.3%	旅行・アウトドア・自然 32.8%
3位	文化系(その他) 16.8%	スポーツ・健康・エクササイズ 25.6%	コミュニケーション・癒し 18.4%	ネット関連・ゲーム 13.0%	文化系(その他) 14.1%	節約・投資 20.5%
4位	節約・投資 15.7%	文化系(その他) 23.3%	スポーツ・健康・エクササイズ 16.0%	娯楽 11.5%	節約・投資 14.1%	文化系(その他) 20.3%
5位	スポーツ・健康・エクササイズ 15.3%	節約・投資 22.9%	節約・投資 15.6%	文化系(その他) 10.3%	娯楽 11.5%	ビューティー・ショッピング 19.6%

70の選択項目をそれぞれ分野別に統合して集計した割合。「男性」と「20代」から「50代」は男性会社員全体と世代別、「女性」は20代~50代の女性会社員全体。

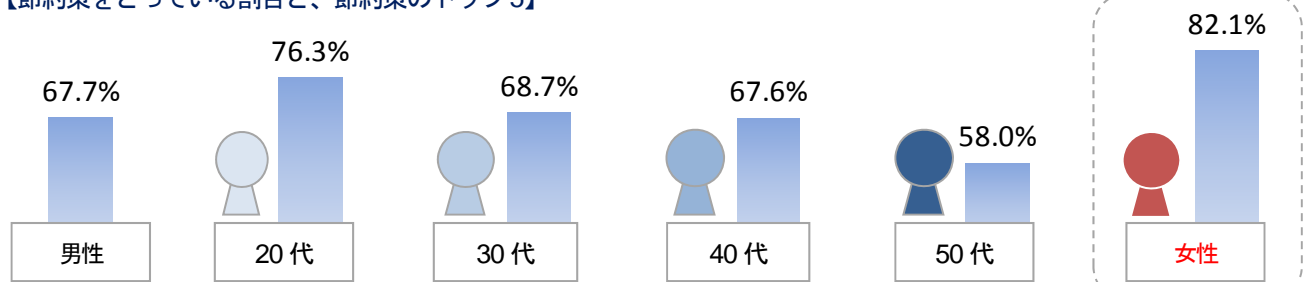
年代別では20代が多く分野でかけるお金や時間が増えています。一方年代が高くなるほど、増えたと回答する割合が減っていく傾向が見られます。女性会社員は、「コミュニケーション・癒し」がトップとなり、「節約・投資」も男性より上位となっています。

### ■ お小遣いのやりくり、不足時の対応 ~ 67.7%が節約。昼食代の節約がトップ ~

男性会社員の67.7%が何らかの節約策をとっており、トップ3は順に「昼食費を安くする」24.5%、「衝動買いをしない」17.7%、「弁当を持参する」16.7%となりました。

設問： あなたは、お小遣い面でみて、ここ最近、何らかの自衛策を講じていますか。あてはまるものをいくつでも選んでください。

【節約策をとっている割合と、節約策のトップ5】



1位	昼食代	24.5%	昼食代	26.3%	昼食代	27.5%	昼食代	27.1%	昼食代	17.2%	弁当持参	36.9%
2位	衝動買い	17.7%	衝動買い	23.3%	弁当持参	17.9%	少しでも歩く	17.9%	衝動買い	14.9%	昼食代	36.6%
3位	弁当持参	16.7%	弁当持参	21.0%	衝動買い	17.6%	水筒持参	16.0%	弁当持参	14.1%	衝動買い	30.0%
4位	少しでも歩く	16.3%	タクシー乗車	19.8%	少しでも歩く	14.5%	飲む回数	15.6%	少しでも歩く	13.4%	水筒持参	28.0%
5位	飲む回数	15.6%	少しでも歩く	19.5%	飲む回数	14.5%	衝動買い	15.3%	飲む回数	13.4%	服飾費	

「男性」と「20代」から「50代」は男性会社員全体と世代別の、「女性」は20代~50代の女性会社員全体の、節約策の上位5位までの項目と割合。

年代別では、節約策を講じている割合が高いのは20代で76.3%となり、ここでは50代は最も低い58%となっています。その内容は、20代と30代で持参弁当の割合が高く（21%、17.9%）、「水筒を持参する」が順位は下げたもののトップ10に入っている状況が続いています。弁当を持参するなどの昼食代の削減が節約策の王道であることは変わりないようです。

一方、女性会社員は節約策を講じている割合は男性よりも14.4%高く、82.1%となりました。その節約策は男性会社員と変わらず昼食代の削減に重きが置かれているようです。

では、節約しても足りなくなってしまった時はどうしているのでしょうか。

設問： お小遣いが足りなくなった時、あなたはどのようにやりくりしていますか？（いくつでも）

【お小遣い不足時の対応方法 トップ5】

	男性		20代		30代		40代		50代		女性	
1位	使わずに我慢	68.0%	使わずに我慢	74.8%	使わずに我慢	71.8%	使わずに我慢	64.9%	使わずに我慢	60.7%	使わずに我慢	62.5%
2位	預貯金を取り崩す	25.2%	預貯金を取り崩す	25.2%	預貯金を取り崩す	22.5%	預貯金を取り崩す	25.2%	預貯金を取り崩す	27.9%	預貯金を取り崩す	35.4%
3位	家計から捻出	17.2%	家計から捻出	19.1%	家計から捻出	15.3%	家計から捻出	16.0%	家計から捻出	18.3%	家計から捻出	24.6%
4位	クレジットカード	11.3%	副収入	15.6%	副収入	9.2%	クレジットカードを利用	14.9%	クレジットカードを利用	10.7%	クレジットカードを利用	13.1%
5位	副収入	10.4%	クレジットカードを利用	11.5%	クレジットカードを利用	8.0%	副収入	8.0%	副収入	8.8%	副収入	9.1%

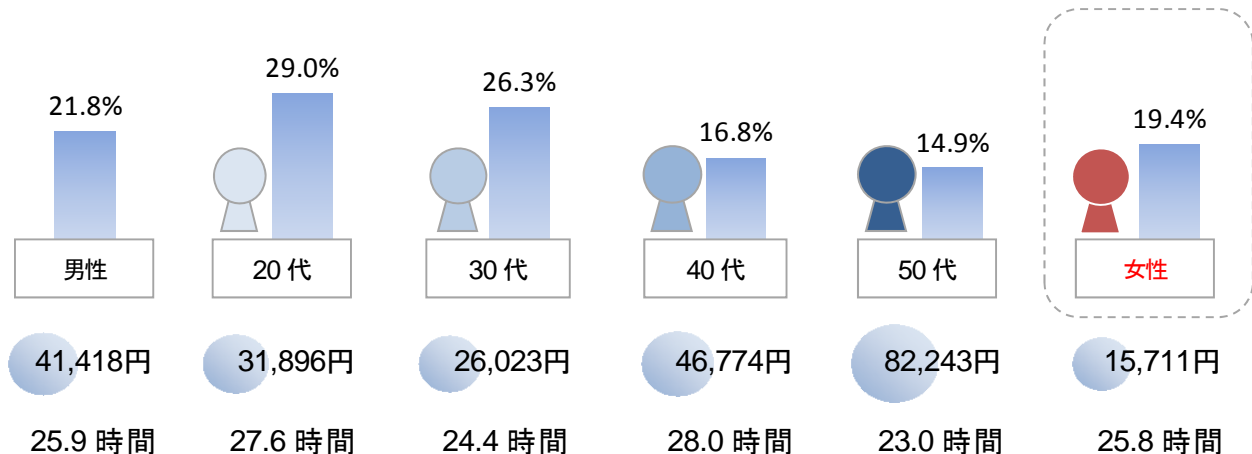
順位は昨年と変わらず、上位から順に、「使わずに我慢する」68%、「預貯金を取り崩す」25.2%、「家計から捻出する」17.2%となっており、足りない場合は我慢をする人が多数を占めています。「副収入を得る（FX や株式の売買、ネットオークションなどの手段で得られた収益）」が10.4%と5位になっており、世代別では20代が15.6%と比較的多くなっています。

## ■ 副収入事情 ～ 副収入のある人は21.8%。1日1時間程度で月に約4万円。 ～

お小遣いが足りない場合に「副収入を得る」人が一定の割合で存在していることがわかりましたが、もう少し掘り下げてサラリーマンの副収入事情を探ってみます。

設問： あなたは給与以外に副収入がありますか？ある方は月にどのくらいの収入を得ていますか？

【副収入がある人の割合と、月の収入額平均、月に費やす時間、副収入の内容のトップ5】



1位	ポイントサイト、アンケートサイト	ポイントサイト、アンケートサイト	ポイントサイト、アンケートサイト	ポイントサイト、アンケートサイト	株式投資	ポイントサイト、アンケートサイト
	51.3%	60.5%	56.5%	50.0%	41.0%	61.5%
2位	株式投資	アルバイト・副業	株式投資	アルバイト・副業	ポイントサイト、アンケートサイト	アルバイト・副業
	22.4%	23.7%	20.3%	31.8%	25.6%	30.8%
3位	アルバイト・副業	株式投資	FX等の外国為替取引	ネットオークション	FX等の外国為替取引	FX等の外国為替取引
	21.5%	22.4%	15.9%	20.5%	20.5%	11.5%
4位	FX等の外国為替取引	FX等の外国為替取引	アルバイト・副業	不動産投資(売買収益、賃貸収入など)	不動産投資(売買収益、賃貸収入など)	不動産投資(売買収益、賃貸収入など)
	15.4%	14.5%	15.9%	11.4%	17.9%	9.6%
5位	ネットオークション	ギャンブル	ネットオークション	FX等の外国為替取引	アルバイト・副業	アルバイト・副業
	11.8%	14.5%	8.7%	11.4%	15.4%	9.6%

「男性」と「20代」から「50代」は男性会社員全体と世代別の、「女性」は20代～50代の女性会社員全体の、副収入がある人の割合、月の平均収入額、月に費やす平均時間、節約策の上位5位までの項目と割合。

男性会社員のうち副収入がある人は全体の21.8%で、昨年の20.6%から微増となりました。年代別では、20代、30代で副収入のある人の割合が多く、年代が上がるとその割合が減っていきます。平均の副収入の金額は、1か月あたり41,418円で、昨年の34,001円から増加しました。世代別では50代が最も高い82,243円です。副収入を得るためにかける時間は、1か月に25.9時間でした。

副収入源は、男性会社員は、「ポイントサイト・アンケートサイト」の51.3%、「株式投資」22.4%、「アルバイト・副業」21.5%、「FXなどの外為取引」15.4%、「ネットオークション」11.8%の順となっています。女性会社員は、「ポイントサイト・アンケートサイト」61.5%、「アルバイト・副業」30.8%、「FXなどの外為取引」11.5%などが主な副収入源となっているようです。



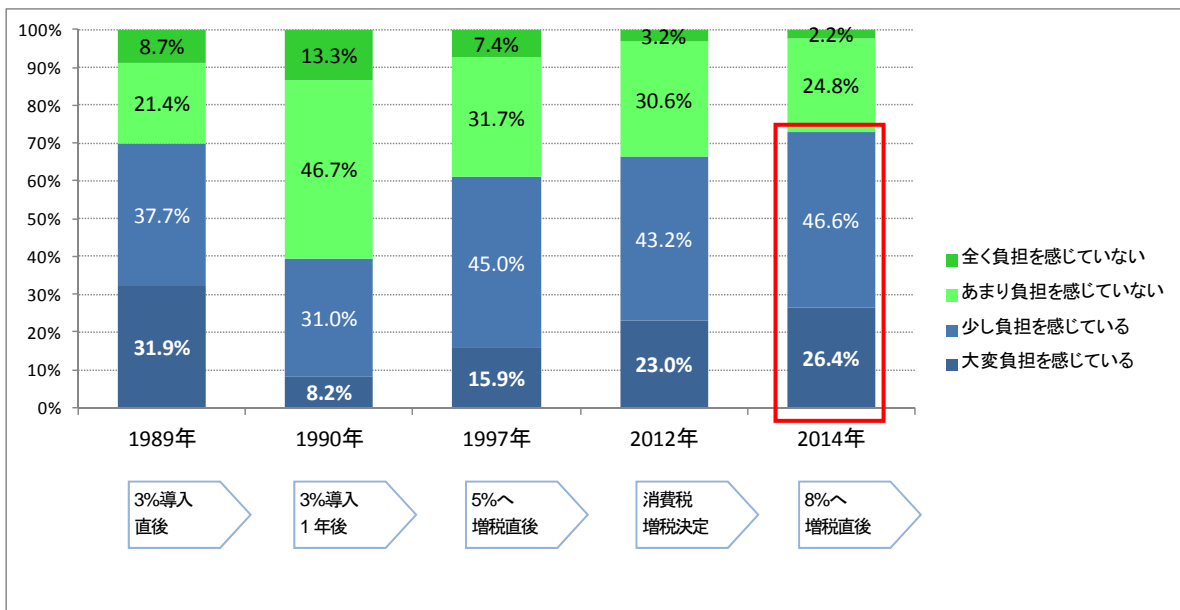
## 【5】消費税の負担感・お小遣いに影響する不安要素

- 消費税に負担を感じている人は、過去最大の73%
- 増税による負担増の対策を立てる人は60.8%で、「お小遣いを節約」する方法がトップ
- 「アベノミクス」による景況感は、景気が悪くなったと感じる人がやや優勢
- 一方、日本の政治や景気に関する不安は継続して低下傾向

### ■ 消費税の負担感と対策 ～ 負担感は過去最大の73%。特に若年層と年収300万円未満で高い傾向 ～

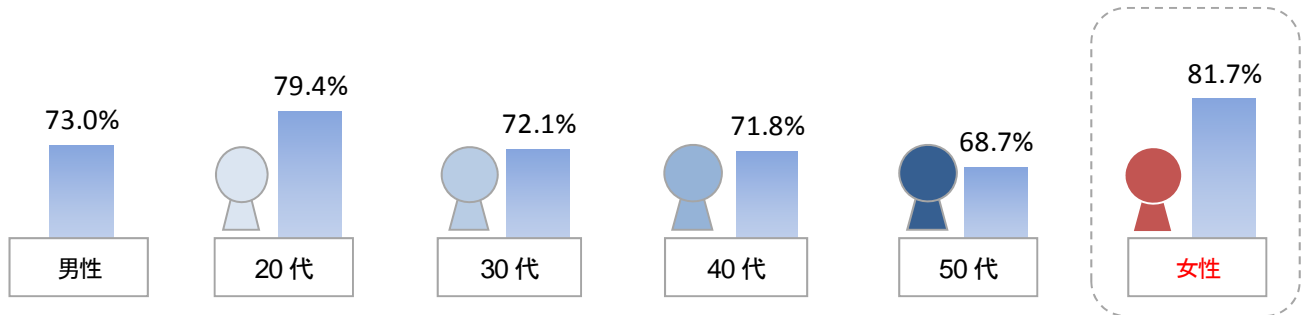
まずは、今年4月1日から8%にアップした消費税の実感をみてみます。男性会社員について、負担を感じている人（「大変負担を感じている」と「少し負担を感じている」の合計）の割合は73%となり、消費税に関する調査を開始した1989年の69.6%（消費税3%導入時）よりも大きく、負担感は過去最大となりました。

設問： あなたは、お小遣いの面で消費税の負担を感じていますか？



男性会社員全体の平均。1989年、1990年はその他の回答を除いているため合計100%未満。1997年の回答の選択肢は、「大いに影響がある」、「少しだけ影響がある」、「あまり影響はない」、「全く影響はない」。

### 【消費税の負担を感じている人の割合】



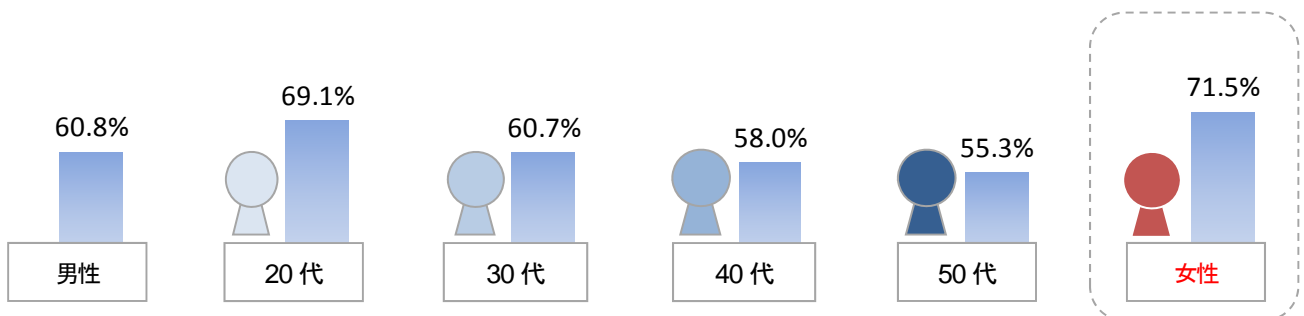
男性会社員全体と世代別の、「女性」は20代～50代の女性会社員全体の、負担を感じている人（「大変負担を感じている」＋「少し負担を感じている」の合計）の割合。

世代別、世帯年収別にみると、負担感を感じる割合は、20代の若年層で79.4%と高く、世帯年収では300万円未満で88.8%となり、年齢と年収が低くなるにつれ負担感が高くなります。また、女性会社員においては81.8%で、男性よりも負担を感じる割合が大きくなっています。（7章のデータ編参照）

次に、負担感の強い消費税に対してどのくらいの割合で対策を立てるのか、また、その対処法を見てみます。

設問： 消費税の増税による、今後のお小遣いの負担増をどのように軽減（対策）しますか？

### 【消費税増税の負担に対して何らかの対策を取る人の割合と、対策方法トップ3】



1位	お小遣い額を節約	お小遣い額を節約	お小遣い額を節約	お小遣い額を節約	お小遣い額を節約	お小遣い額を節約
	38.0%	41.6%	38.9%	35.9%	35.5%	50.4%
2位	預貯金を取り崩す	収入を増やす (副収入を得る)	収入を増やす (副収入を得る)	預貯金を取り崩す	預貯金を取り崩す	預貯金を取り崩す
	19.6%	30.5%	20.2%	18.7%	19.8%	20.9%
3位	収入を増やす (副収入を得る)	預貯金を取り崩す	預貯金を取り崩す	収入を増やす (副収入を得る)	収入を増やす (副収入を得る)	収入を増やす (副収入を得る)
	19.0%	24.4%	15.3%	15.3%	9.9%	19.4%

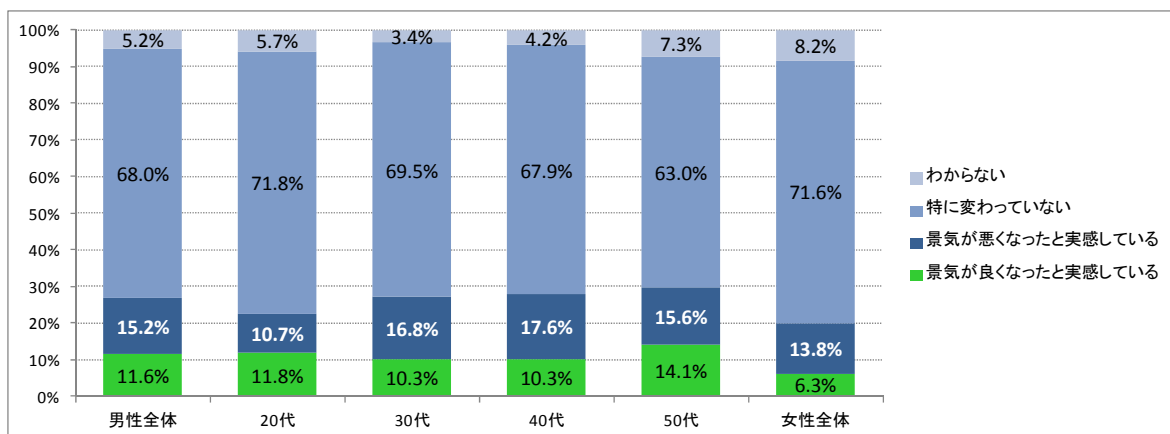
「男性」と「20代」から「50代」は男性会社員全体と世代別の、「女性」は20代～50代の女性会社員全体の、消費税増税の負担に対して何らかの対策を取る人の割合と、その対処法の上位3位までの項目と割合。

男性社員について、消費税増税によるお小遣いへの負担増に対応するため、何らかの対策を立てる人は60.8%でした。また、女性社員は71.5%に上っています。先に見た負担感と同様に、若年層と世帯年収の低い層、女性社員は、消費税増税に対して対策を立てようとする意識が高く出ています。その対処法は、男性社員、女性社員ともに「お小遣いを節約する」がトップで、続いて、20代と30代の男性社員は負担増に対して収入を増やすことで補う（それぞれ30.5%、20.2%）、40代、50代の男性社員と女性社員は預貯金を取り崩して対応しようとする傾向が見られます（それぞれ18.7%、19.8%、20.9%）。

## ■ アベノミクス実感 ～ 景気が悪くなった感が優勢。実感が「わからない」は約7割 ～

次に、現在の景況感について、「アベノミクス」の影響を実感しているか聞いたところ、「わからない」が68%と多数を占めていますが、「景気が悪くなった」が15.2%、「景気が良くなった」が11.6%と、やや悪くなった感が優位となっています。

設問： あなたは「アベノミクス」の影響を実感していますか？



「男性全体」と「20代」から「50代」は男性社員全体と世代別の、「女性全体」は20代～50代の女性社員全体の、「アベノミクス」影響の実感の割合。

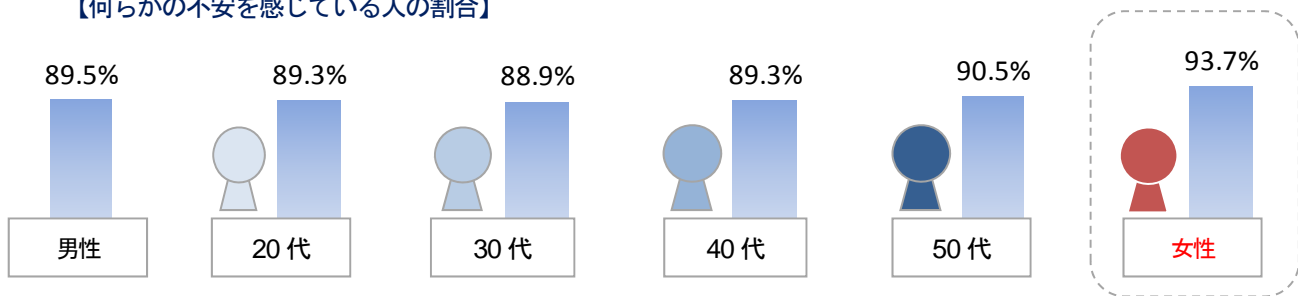
年代別では、お小遣い額が多かった50代が、良くなったと実感した割合が14.1%と高くなっています。また、女性社員は「わからない」と回答する割合が71.6%と高く、また、良くなったと実感する人が男性社員の約半分の6.3%に留まっています。

## ■ 最近感じている不安 ～ 約9割が何らかの不安あり。政治と景気の不安は継続して解消 ～

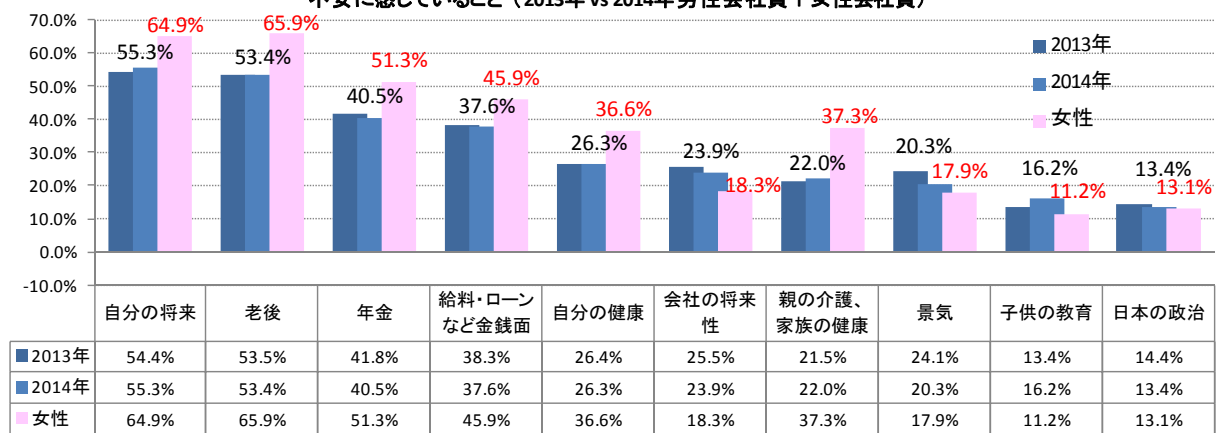
では、最近不安を感じていることは何でしょうか？何らかの不安を感じている人は、男性社員は全体の89.5%で、その内容の順位は昨年と変わらず、トップ3は順に、「自分の将来」55.3%、「老後」53.4%、「年金」40.5%となっています。一方、女性社員は不安を感じている割合が93.7%と男性よりも高くなっています。

設問：あなたは、最近どのようなことに不安を感じていますか。あてはまるものをいくつでも選んでください。

【何らかの不安を感じている人の割合】



不安を感じていること（2013年 vs 2014年男性会社員＋女性会社員）



「2014年」は男性会社員全体と世代別の「感じている不安」の上位10位までの項目と割合を2013年度と比較。

「女性」は、男性会社員の「感じている不安」の上位10位までの項目についての、20代～50代の女性会社員の割合。

男性会社員の「日本の政治」に対する不安は、2010年37.8%、2012年28.8%、2013年14.4%、今年は13.4%と昨年から低い状態をキープしています。また、「景気」についても、2012年の29.2%から、2013年は24.1%、今年は20.3%とさらに減少しています。アベノミクスの実感としては「景気が悪くなった」が優勢でしたが、今後に期待する心理がここに表れているのかもしれませんが。女性会社員の不安を感じていることのトップは「老後」の65.9%で「自分の将来」の64.9%と同程度の高さとなっています。

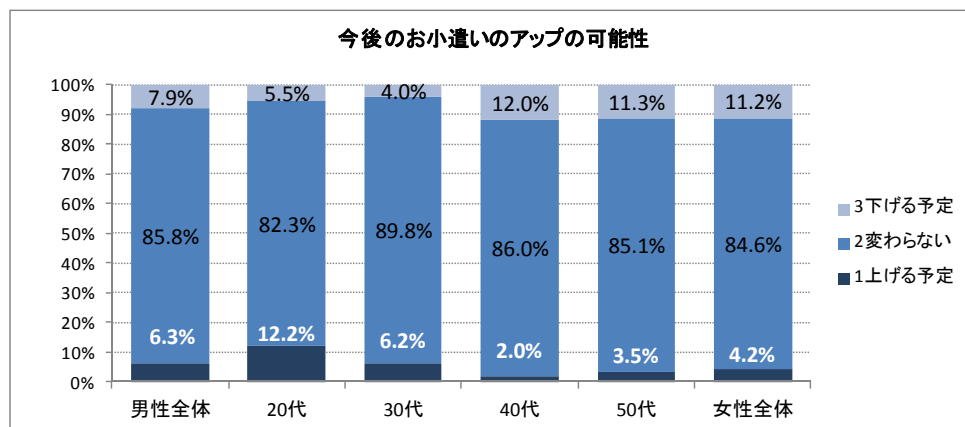
## 【6】お小遣いアップの可能性

- お小遣いを「上げる予定」は6.3%、「下げる予定」は7.9%で下げる派が優勢。
- 出費増により、お小遣い額は来年も上がる可能性。40代、50代が引き続きけん引するか。

### ■ お小遣いアップの可能性 ～ お小遣いを下げる予定が優勢 ～

男性会社員について、家計の主導権を握っている人のうち、今後のお小遣いは「変わらない」と回答した人は85.8%で、現状維持派が9割弱を占めています。「上げる予定」は6.3%。「下げる予定」は7.9%で、下げる派が優勢となっています。

設問：今後、お小遣いアップの可能性はありますか？



年代別では、20代の「上げる予定」が全体平均の約2倍の12.2%となり、お小遣いを上げるとした割合が比較的多くなっています。年代があがるにつれて「上げる予定」が減り、「下げる予定」としている割合が増える傾向にあります。女性会社員は「下げる予定」が11.2%と、男性会社員よりも下げる意向が強くなっています。

### ■ 今後のお小遣いの見込み ～ 出費増により来年も増える可能性 ～

お小遣いアップのための「三本の矢」は、①収入の増加と家計への負担の軽減、②日経平均株価または消費者物価指数の上昇、③将来の不安の解消、だと考えると、今年は、消費者物価指数の上昇と、政治や景気に対する不安が軽減されたこと、昇給の割合が増えたことなどから、お小遣い額、昼食代、飲み代はわずかですが全て上昇しました。ただし、お小遣い面からみた日常生活のゆとり度は全体的に苦しい感が強まりましたので、お小遣い額が上がったのは、消費税増税により支出も増えざるを得ない結果とも考えられます。

さらに、世代別で見ると、40代、50代がけん引しており、特に20代の若年層はお小遣い額や昼食代、飲

み代は 40 代、50 代と比較すると低い傾向が続いているという二極化が進んでいることがわかりました。お小遣い額が高く、バブル景気を知る 40 代、50 代は株式市場の活況と景気が回復しつつある中で、つつい財布の紐が緩みがちになってきているのかもしれませんが。一方で、20 代はこれまでの不況が当たり前の中で育ったため、景気の回復が消費行動に結び付ききっかけにはなりにくいと考えています。

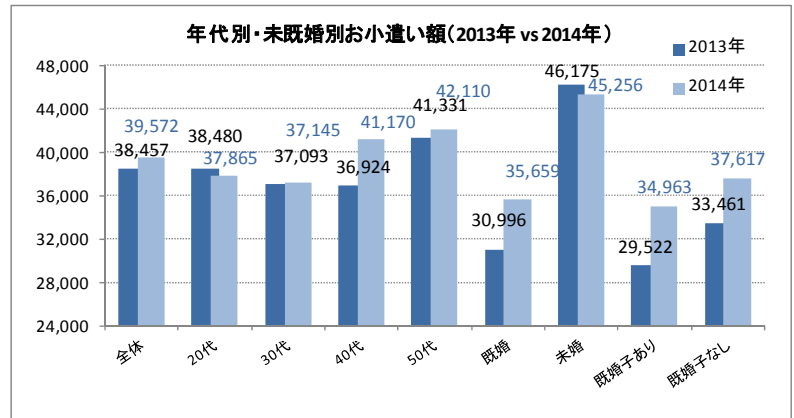
昨年の予想通り、お小遣い額の急激な回復はありませんでした。30 年白書で記載した通り、近年のお小遣い額は消費者物価指数と相関が強いことから、消費者物価が上昇し、消費税増税により出費も増えるため、お小遣いも増やさざるを得ない状況にあります。このため、お小遣い面からみた日常生活のゆとり度は全体的に苦しい感が強まっているものの、来年もお小遣い額は増える可能性が高いと予想しています。また、20 代、30 代は消費税の負担感が強く、節約の傾向も強いことから、消費意欲が他の年代よりも低いと考えられ、お小遣い額については、今年と同様に 40 代、50 代がけん引する状況が続くと思われま

若者の生活レベルが向上することで消費を促し、若者が中心となって日本の経済を支える姿が明るい日本の未来を作ります。お小遣い調査は日本経済の一面を垣間見られるものであると考えています。近い将来には 20 代、30 代の若年層がお小遣いのアップを支えてくれている、明るい姿になることを切に願っています。

## 【7】データ編

### ■ 【1】お小遣い額

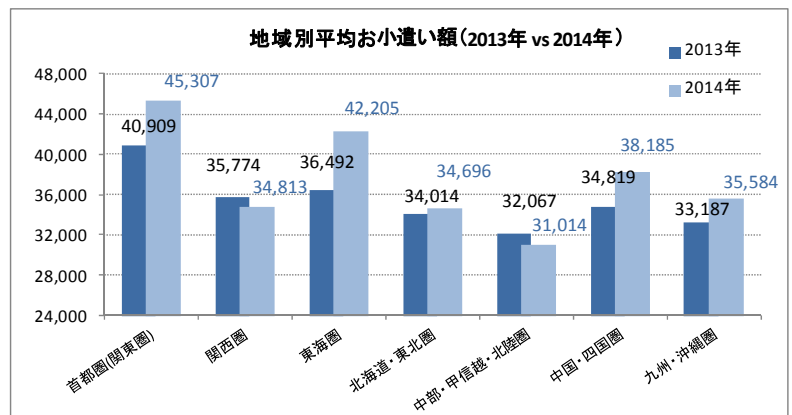
#### ■ 年代別・未既婚別、既婚子どもありなし別 (男性会社員のみ)



#### ■ 地域別お小遣い額 (男性会社員のみ)

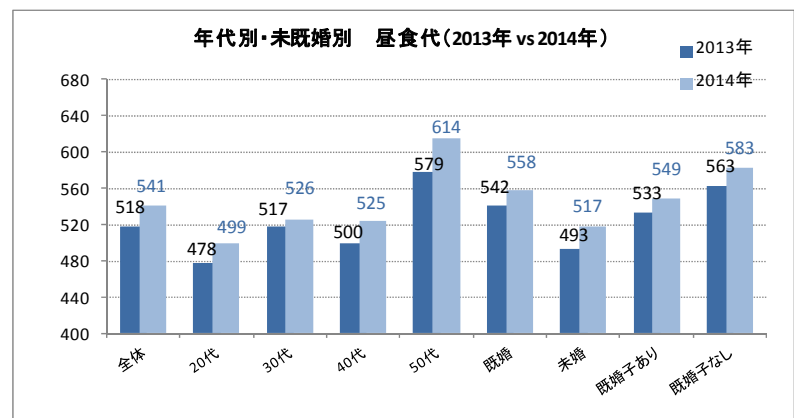
対象となる地域の定義は以下の通り

- ・首都圏(東京・千葉・神奈川・埼玉・栃木・茨城・群馬)
- ・関西圏(大阪・京都・奈良・兵庫・和歌山・滋賀)
- ・東海圏(愛知・静岡・三重)
- ・北海道・東北圏(青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島)
- ・中部・甲信越・北陸圏(山梨・長野・岐阜・新潟・富山・石川・福井)
- ・中国・四国圏(岡山・広島・鳥取・島根・山口・香川・徳島・愛媛・高知)
- ・九州・沖縄圏(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄)



### ■ 【2】昼食事情

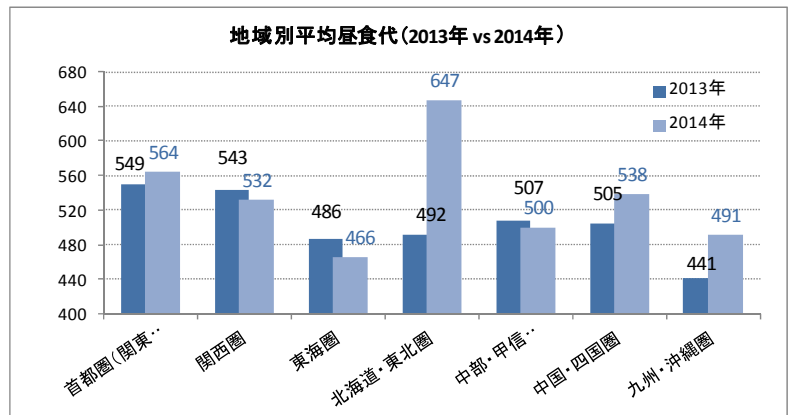
#### ■ 年代別・未既婚別、既婚子どもありなし別 昼食代 (男性会社員のみ)



## ■ 地域別昼食代 (男性会社員のみ)

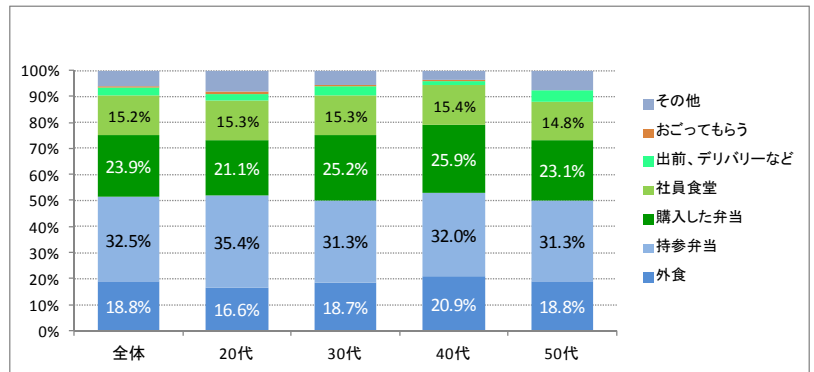
対象となる地域の定義は以下の通り

- ・首都圏 (東京・千葉・神奈川・埼玉・栃木・茨城・群馬)
- ・関西圏 (大阪・京都・奈良・兵庫・和歌山・滋賀)
- ・東海圏 (愛知・静岡・三重)
- ・北海道・東北圏 (青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島)
- ・中部・甲信越・北陸圏 (山梨・長野・岐阜・新潟・富山・石川・福井)
- ・中国・四国圏 (岡山・広島・鳥取・島根・山口・香川・徳島・愛媛・高知)
- ・九州・沖縄圏 (福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄)

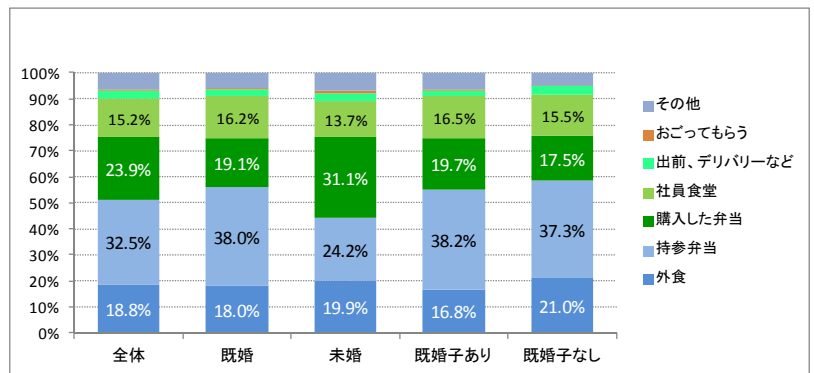


## ■ 昼食の内訳 (男性会社員のみ)

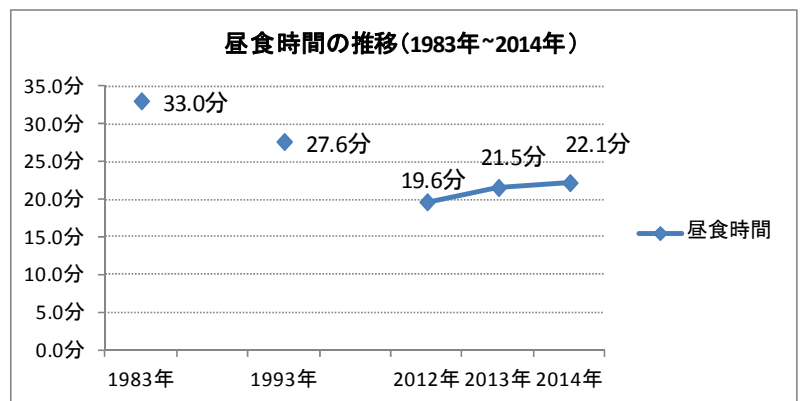
### ➢ 年代別



### ➢ 未既婚、既婚子ありなし別



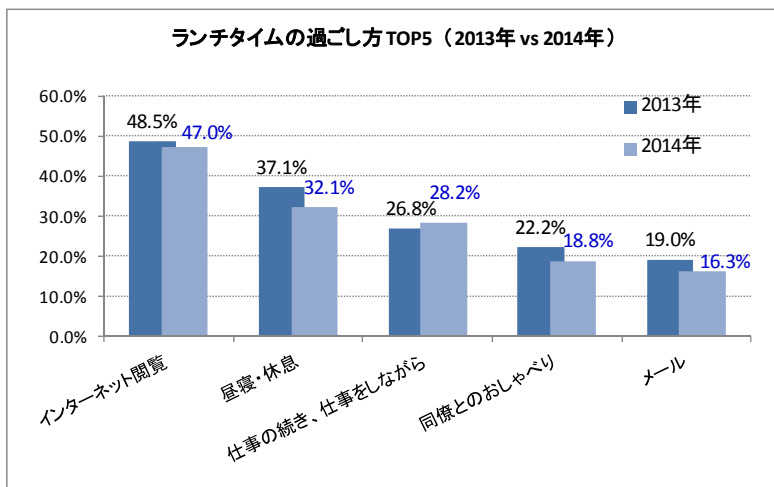
## ■ 昼食にかかる時間 (男性会社員のみ)



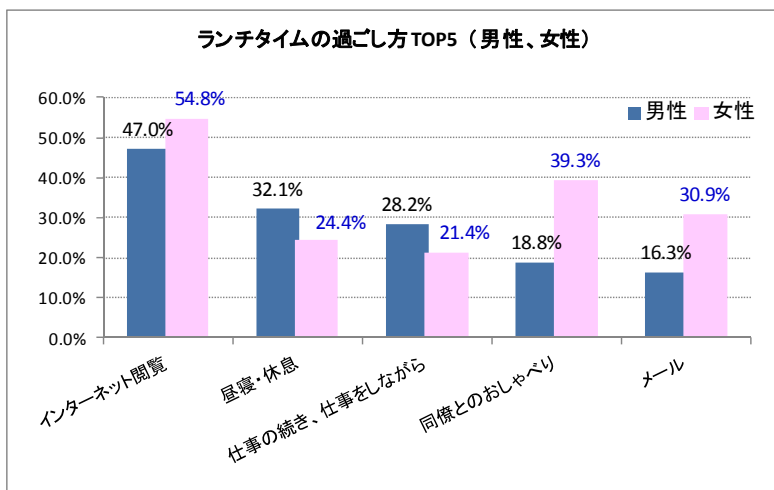


■ ランチタイムの過ごし方

➢ 2013年と2014年比較（男性会社員）



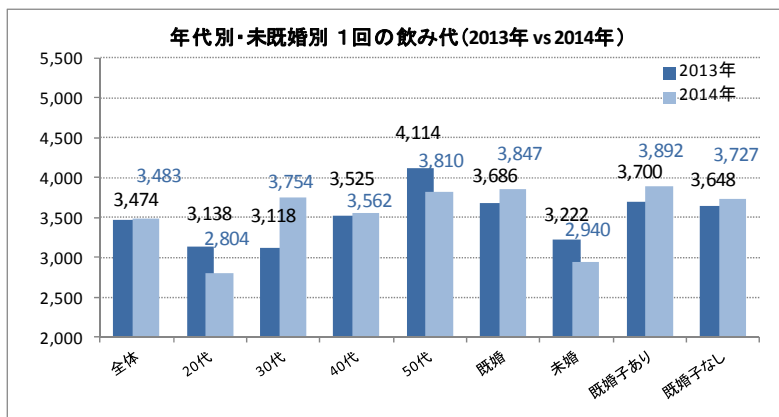
➢ 男性会社員、女性会社員比較



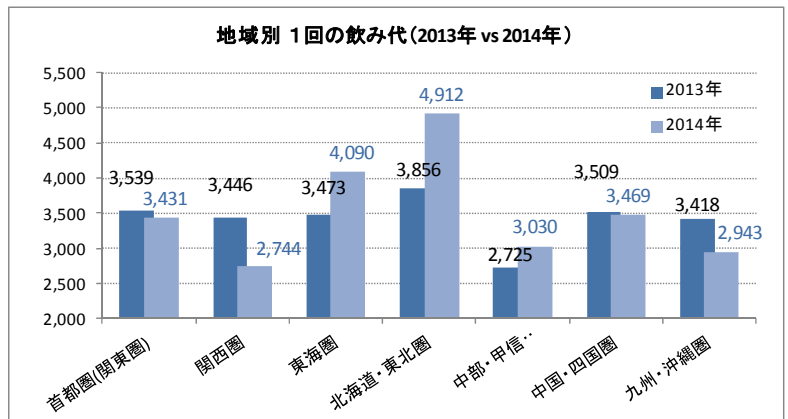
■ 【3】 飲み事情

■ 1回の飲み代

➢ 年代別、未婚、既婚者あり/なし  
 （男性会社員のみ）

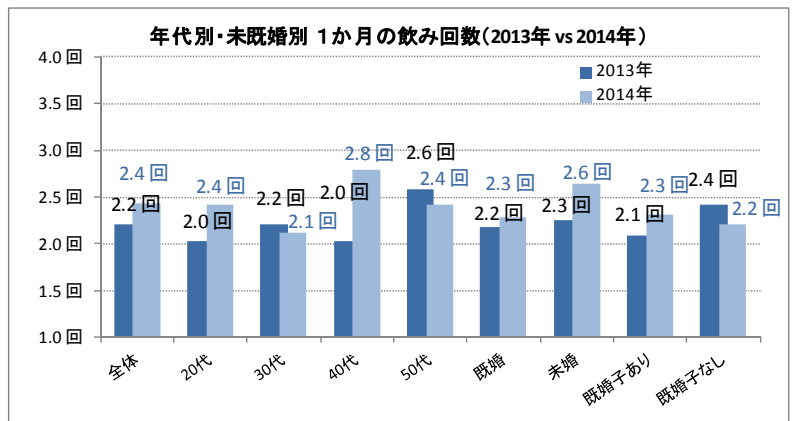


➤ 地域別（男性会社員のみ）

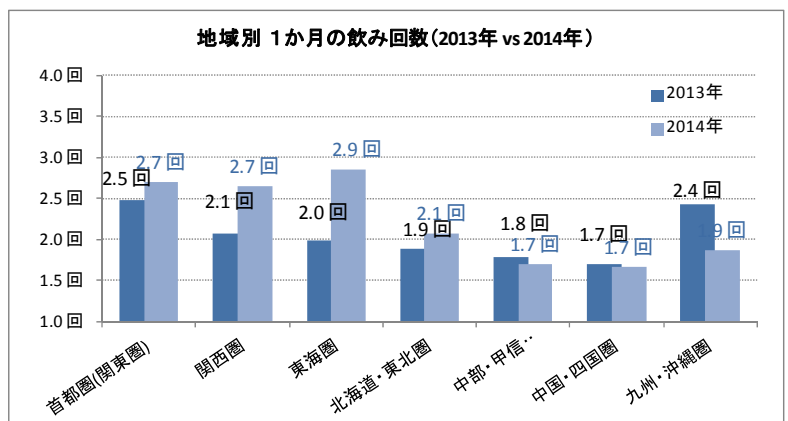


■ 1か月の飲み回数

➤ 年代別、未既婚、既婚子あり/なし  
（男性会社員のみ）

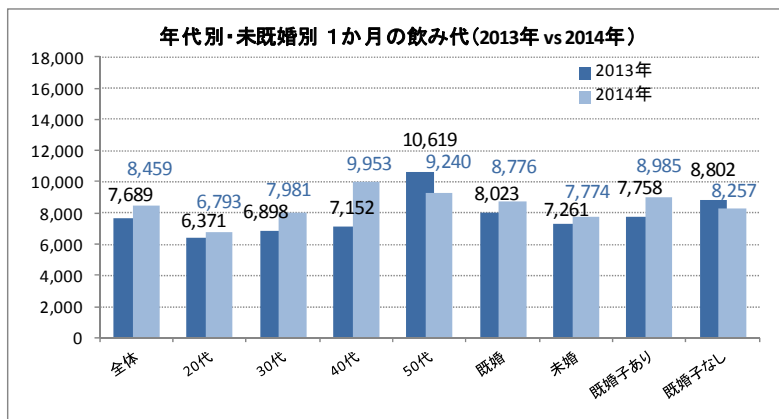


➤ 地域別（男性会社員のみ）

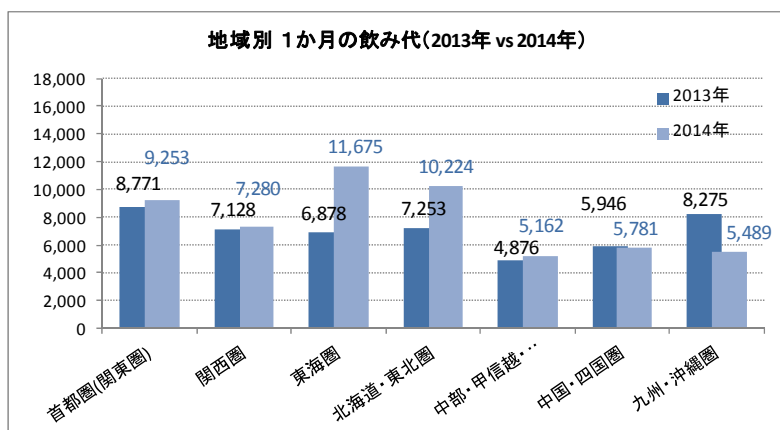


■ 1か月の飲み代

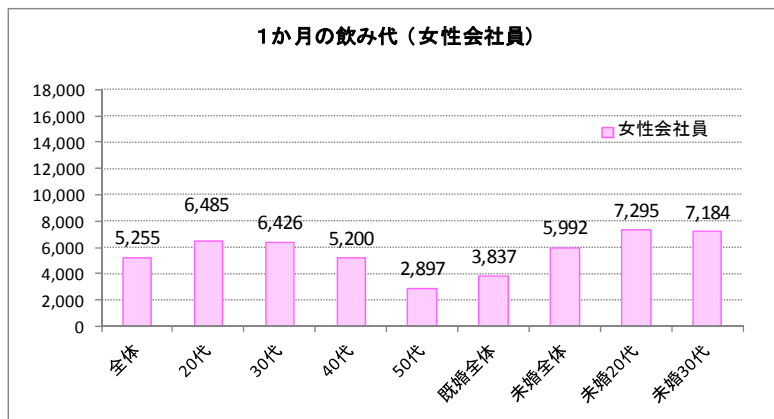
- 年代別、未既婚、既婚子あり/なし  
 (男性会社員のみ)



- 地域別 (男性会社員のみ)

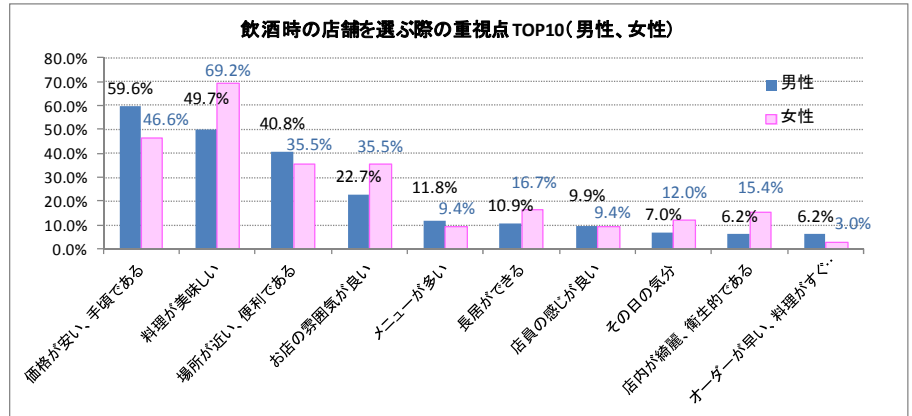


- 女性会社員の年代別、未既婚別



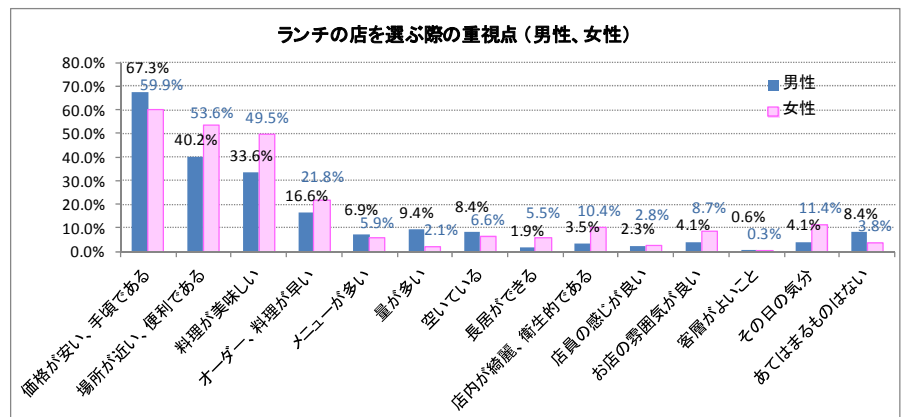
■ 飲酒時の店舗を選ぶポイント

➢ 男性会社員、女性会社員比較



➢ 【参考資料】

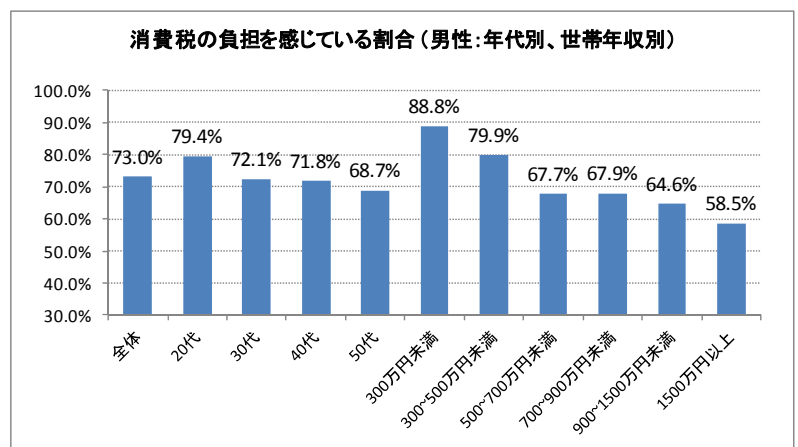
男性会社員、女性会社員の  
 ランチの店を選ぶポイント



■ 【5】 不安要素

■ 消費税の負担感

男性会社員の世代別、世帯年収別



■ 消費税の増税による負担を対策する割合

男性会員の世代別、世帯年収別

